



平成28年度
創価大学教職大学院講義要項
教職研究科 教職専攻

目次

共通科目

教育課程の編成及び実施に関する領域..... (1)

学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン
学校カリキュラムと教育研究推進の組織化
個の学びの支援と学習デザイン

教育等の実践的な指導方法に関する領域..... (8)

教科等の指導開発研究A I (国語、社会)
教科等の指導開発研究A II (国語、社会)
教科等の指導開発研究B I (算数、理科)
教科等の指導開発研究B II (算数、理科)
教科等の指導開発研究C (図工、体育)
教科等の指導開発研究D (生活科・総合的学習)
教科等の指導開発研究E (外国語活動)
教科等の指導開発研究F (道徳)

生徒指導及び教育指導に関する領域..... (43)

特別活動と生徒指導
学校カウンセリングの現状と課題
特別支援教育の現状と課題
子どもの人権を保障する学校文化の形成

学級経営及び学校経営に関する領域..... (54)

教育行政・学校経営の現状と課題
学級のデザインと子ども同士の関係づくり
教員研修実務研究

学校教育と教育の在り方に関する領域..... (60)

生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割
子ども理解・保護者理解
人間的成長に関する理論と実践
教員の服務等と教育法規

分野別科目

教育実践総合研究 (71)

教育実践研究方法Ⅰ
教育実践研究方法Ⅱ
学習指導の方法研究Ⅰ
学習指導の方法研究Ⅱ
学習活動の組織化とその評価
授業力育成のための理論と方法
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ
総合学習と社会参加学習論
ICTを活用した教育活動

人間教育総合研究 (100)

人間教育実践分析研究
人間教育実践分析課題研究
人間教育事例分析研究
人間教育事例分析課題研究

教育開発総合研究 (118)

教職課題研究Ⅰ
教職課題研究Ⅱ

教育課題実地総合研究 (143)

教育課題実地研究(国内)奈良
教育課題実地研究(国内)富山
教育課題実地研究(国外)米国
教育課題実地研究(国外)中国

共通科目

■科目名 **学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン**

■教員名 **長崎 伸仁 ・ 三津村 正和**

■授業概要

本授業科目は、各学校における教育内容の国家的基準である学習指導要領の意義と基本的性格を的確に理解できるように展開する。また、各教科の学習指導要領の現行までの変遷を概観し、現在どのような教科カリキュラムが求められているのかを、各受講者の問題関心や実務経験に即して、デザインする。

さらに、平成 20 年版学習指導要領より、児童生徒が身につけるべき学力として重要度が増している「思考力・判断力・表現力」、また中教審答申（平成 24 年 8 月 28 日）において言及され、高等教育における普及・定着から今後、初等・中等教育への更なる応用・展開が見込まれる教授・学習法としてのアクティブラーニングについて、それらの育成と活用を教科カリキュラムの上に具体的にデザインする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 <ul style="list-style-type: none">● 平成 20 年版学習指導要領と平成 10 年版学習指導要領の「総則」等の比較● 平成 26 年 12 月 22 日付けの中教審答申から見えてくること● 教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科の確定 【準備学習】平成 20 年版・10 年版学習指導要領を学習しておくこと。
第2回	<講義>アクティブラーニングを取り入れた教科カリキュラムのデザイン：単元・学期・年間を見通したカリキュラムのデザイン 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第3回	<講義>アクティブラーニングの理論と実践（1）：「教育学」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニングとは何か、何のためのアクティブラーニングか、ディープ・アクティブラーニングの考え方） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第4回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（2）：「教育方法学」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニングの多様な学習形態：協同学習、PBL 等） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第5回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（3）：「教育工学」から見たアクティブラーニング（学習意欲のデザイン：ARCS モデル） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第6回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（4）：「学習課題」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニング型授業における学習課題の設定） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成

第7回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践 (5) : 「人間教育」から見たアクティブラーニング (教師の振る舞い、魅力のある授業とは) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第8回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (1) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第9回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (2) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第10回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (3) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第11回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (4) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第12回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (5) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第13回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (6) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第14回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (7) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第15回	本授業科目のまとめ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導的な立場にある管理職候補者は、国の方針や都道府県等教育委員の方針を踏まえつつも、各学校等の現状や児童生徒の現況に鑑みて、どのような教科カリキュラムであるのが適切なのかを、現行の学習指導要領やアクティブラーニングの考え方を基に思考し判断することができる。

(現職教員)

アクティブラーニングの理論と応用を理解した上で、「思考力・判断力・表現力」は、どのような教科カリキュラムをデザインすることで育まれるのか究明することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

アクティブラーニングの基本的な考え方を理解するのとともに、各教科の特性を把握した上で、児童生徒のどのような力をどのようにすれば育むことができるのかを、教科カリキュラムをデザインすることで探求することができる。

■評価方法

- 15回の全授業での演習等での参画状況。
- 個人またはグループでのプレゼンテーションや最終レポートの充実度。

■使用教材

- 長崎伸仁[監] (2016) 『アクティブラーニングでつくる国語の授業』 (東洋館出版)

- 稲垣忠・鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』（北大路書房）
- 平成 20 年版の「学習指導要領」「学習指導要領(解説編)」
- 平成 26 年 12 月 22 日付け「中教審答申(抜粋)」
- 他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学校カリキュラムと教育研究推進の組織化**

■教員名 **寺林 民子 ・ 若井 幸子**

■授業概要

本科目は、児童・生徒が学校生活全体を通して学び習得するカリキュラムの効果的経営の原則と基本方策を的確に理解されることをねらいとしている。すなわち、各学校で日々展開される個別の教授・学習活動(授業)は、その学校のカリキュラムとして統合され、銘々の児童・生徒にとっての豊かな学習に結びつくように、教員側が教育研究推進の仕組み(体制)をどのように整え、運営すればよいかを究明する授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 科目授業の意義 履修生の学びの紹介 準備学習:シラバスの確認
第2回	各人の課題意識とこの科目で学びたいこと 準備学習:自己の現時点での課題意識学びたいこと 勤務校(実習校)の教育経営資料の収集
第3回	学校カリキュラムの効果的経営原則(1) 子どもの個の学び —個別児童・生徒対象の学習アセスメントの意義・方法— 準備学習:配布資料の学習
第4回	学校カリキュラムの効果的経営原則(2) 指導者の立場 —指導担当教員対象のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、①学習評価と②教育活動評価 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第5回	学校カリキュラムの効果的経営原則(3) —学校総体のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、③学校経営評価 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第6回	学校カリキュラムの効果的な経営原則についてのディスカッション 4つの評価の連続性、④学校評価 準備学習:1回から5回までの学習を踏まえた課題意識の明確化
第7回	勤務校の事例とその分析(1) 学生の報告とディスカッション 準備学習:配布事例(4題)について取り組みの様子と課題の把握と分析
第8回	勤務校の事例とその分析(2)(3) 学生の報告とディスカッション 準備学習:配布事例について取り組みの様子と課題の把握と分析
第9回	先進的な学校の事例とその分析(4) 準備学習:配布事例についての読み込みと分析

第10回	校内教育研究推進体制の構造と運営(1) 準備学習:自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第11回	校内教育研究推進体制の構造と運営(2) 準備学習:自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第12回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(1) 先進的な学校の事例研究 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第13回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(2) 講師招聘(群馬大学:黒羽教授、本学 西 穰司教授)学生の報告とディスカッション 準備学習:配布資料の読み込みと分析
第14回	科目授業学びと今後の取り組み 準備学習:各自のテーマ
第15回	本授業科目全般のまとめ 準備学習:本科目授業を通して明らかになったこと考察についてのレポート 履修者のみの冊子として配布し学びの資料とする

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用でき、組織体制の構築を指導できる。

(現職教員)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用できる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての冷静かつ的確な理解を得るとともに、その具体的な展開事例についての取材・分析・整理の作業を遂行する。

■評価方法

- (1) 第14回までの演習での質問・協議への参画状況
- (2) 各学校の効果的なカリキュラム経営に関する基本認識の的確性と事例研究での取り組み状況・成果を反映した最終レポートの充実度。

■使用教材

『教育経営と教育課程の編成・実施』日本教育経営学会編〔日本教育経営第4巻〕
ぎょうせい 1987
『子どもが自分を生きる授業—自己変革を促す校内研修』(富山市立堀川小学校)明治図書
『授業記録による授業改革のプロセス』東海市小・中学校教師の挑戦
名古屋大学・東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **個の学びの支援と学習デザイン**

■教員名 **寺林 民子・小田 勝巳**

■授業概要

個の理解について米国の事例、日本の事例から、「個」や、個の性質についての各人の捉え方について吟味する。次に日本における「個に応じた指導のとらえかたやその指導法」が導入された経緯を理解し、「個に応じた指導」を実現するためには、「個」の捉え方が規定として重要であることに理解を深め、それを実践に生かすことができる資質を養うことか目的である。そのため、演習を中心とした学びとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ・個の把握の教育における意味 ・各人の問題意識の掘り上げ、個に関わる指導のイメージのとらえ方
第2回	「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し① 準備学習:「個の成長」の学習
第3回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 事前学習:『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第4回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 事前学習:『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第5回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習① 事後学習:演習からのふりかえり
第6回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習② 事後学習:演習からのふりかえり
第7回	子どもの「個」の確立のために 個性追求の視点(日本) 事前学習:『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習
第8回	「個に応じた指導」諸外国の事例の比較 「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し②
第9回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)① 事前学習:配布資料の学習
第10回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)② 事前学習:配布資料の学習

第11回	「個」の性質、「個」とは何か 事前学習:『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習、配布資料の学習
第12回	「個」をとらえる一幼児教育の事例からの考察 事後学習:視聴資料のふりかえりと考察
第13回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる① 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味
第14回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる② 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味
第15回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる③ 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導法の違いによる影響や効果をふまえた上で、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方について体系的に理解するとともに、児童理解の規定である「個」の捉え方について個々の教員や学校単位での授業の計画と実践の場面において指導助言をすることができる。

(現職教員)

指導法の違いによる影響や効果をふまえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方と課題の解決に向けた実施策を提案する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

指導法の違いによる影響や効果を踏まえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解し、計画・実施に必要な準備や条件等を整理するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方とに基づいて授業を計画する。

■評価方法

授業時のプレゼンテーションやレポート、最後にまとめとして提出するレポートを資料として総合的に判断する。

■使用教材

『子どもの学びと自己形成—子どもの危機を救うこれからの評価観』堀川小学校(明治図書)
『個の成長—可能性の開発をめざして—』堀川小学校(明治図書)『個性の見方育て方』重松鷹泰(第三文明社)『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編(ミネルバ書房)
『学校と教育』デューイ(岩波文庫)

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究 A I (国語)

■教員名

長崎 伸仁・石丸 憲一

■授業概要

新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた文学教材の授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から展開する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>○目標と進め方を知る。(担当—長崎・石丸)</p> <p>○後藤富士夫実践「かさこじぞう」のビデオを視聴し、感想等を交流する。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第2回	<p>○長崎伸仁実践「海の命」のビデオを視聴し、「かさこじぞう」の授業との違いを中心に交流する。(担当—長崎・石丸)</p> <p>●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)を決定。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第3回	<p>○「読解と表現をつなぐ文学の授業」の理論 等(石丸)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第4回	<p>○「読解と表現をつなぐ文学の授業」 等(長崎)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第5回	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(1年「おおきなかぶ」)の考察 ①</p> <p>【準備学習】「おおきなかぶ」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おおきなかぶ)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第6回	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(2年「スーホの白い馬」)の考察 ②</p> <p>【準備学習】「スーホの白い馬」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(スーホの白い馬)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第7回	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(3年「おにたのぼうし」)の考察 ③</p> <p>【準備学習】「おにたのぼうし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おにたのぼうし)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第8回	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(4年「夏のわすれもの」)の考察 ④</p> <p>【準備学習】「夏のわすれもの」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(夏のわすれもの)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第9回	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(5年「大造じいさんとがん」)の考察 ⑤</p> <p>【準備学習】「大造じいさんとがん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(大造じいさんとがん)』の考察。本授業の振り返り。</p>

<p>第10回</p>	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(6年「やまなし」のどちらかの実践)の考察 ⑦ ●プレゼンの分担(個人またはグループ)を決定 【準備学習】「やまなし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(やまなし)』の考察。本授業の振り返り。</p>
<p>第11回</p>	<p>○アクティブラーニングを取り入れた文学の授業を構想するポイント(石丸・長崎)―「思考力・表現力・判断力」の育成を視野に入れ― 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第12回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案① 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第13回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案② 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第14回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案③ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第15回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案④ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法(アクティブラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出版)

②長崎伸仁・石丸憲一 他『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館出版社)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

③長崎伸仁・石丸憲一『表現力を鍛える文学の授業』(明治図書)

④長崎伸仁・調布市立富士見台小学校『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

⑤長崎伸仁・桂 聖『文学の教材研究コーチング』(東洋館出版社)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**教科等の指導開発研究 A I (社会)****■教員名****宮崎 猛・吉田 和義****■授業概要**

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試みる。

特に本授業の特徴はフィールドワークを通して自らが学修しながら、指導の方法を身に付けていくことである。授業日以外の休日に臨検（これまでに銀座・築地方面、横浜、新宿に向いた）を行ったり、東京地方裁判所に赴き、実際の裁判を傍聴したりするなどである。

なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	社会科誕生の背景と歴史 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	初期社会科の実践とその本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検事前学習3（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	フィールドワーク臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	社会科教育の現代的課題—法教育 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	裁判傍聴の事前準備 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科の本質ならびに現行学習指導要領の特質、社会科の評価の在り方を理解し、研究的なアプローチに基づいて自ら教材を開発し、展開することができる力量を育成する。

■評価方法

○評価方法 出席：30点(2×15) レポート・振り返り：30点、授業への参加意欲：20点、最終報告書・指導案20点

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D(不合格)：59点以下

■使用教材

「社会科教育の創造 ー基礎・理論・実践ー」教育出版 (2009年)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究 A II (国語)

■教員名

長崎 伸仁 ・ 石丸 憲一

■授業概要

新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた説明文教材の授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から構想する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>○目標と進め方を知る。(担当—長崎・石丸)</p> <p>○長崎伸仁実践「サクラソウとトラマルハナバチ」のビデオを視聴し、感想等を交流する。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第2回	<p>○長崎伸仁実践「ウナギのなぞを追って」のビデオを視聴し、「サクラソウとトラマルハナバチ」の授業との違いを中心に交流する。(担当—長崎・石丸)</p> <p>●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)の決定。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第3回	<p>○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論 等(長崎)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第4回	<p>○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論 等(石丸)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第5回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(1年「どうぶつの赤ちゃん」)の実践の考察 ①</p> <p>【準備学習】「どうぶつの赤ちゃん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(どうぶつの赤ちゃん)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第6回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(2年「すみれとあり」)の実践の考察 ②</p> <p>【準備学習】「すみれとあり」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すみれとあり)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第7回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(3年「すがたをかえる大豆」)の実践の考察 ③</p> <p>【準備学習】「すがたをかえる大豆」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すがたをかえる大豆)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第8回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(4年「くらしの中の和と洋」)の実践の考察 ④</p> <p>【準備学習】「くらしの中の和と洋」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(くらしの中の和と洋)』の考察。本授業の振り返り。</p>

第9回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(5年「言葉と事実」)の実践の考察 ⑤ 【準備学習】「言葉と事実」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(言葉と事実)』の考察。本授業の振り返り。
第10回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(6年「自分の脳を自分で育てる」)の実践の考察 ⑥ 【準備学習】「自分の脳を自分で育てる」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(自分の脳を自分で育てる)』の考察。本授業の振り返り。
第11回	○アクティブラーニングを取り入れた文学の授業を構想するポイント((石丸・長崎) —「思考力・判断力・表現力」の育成を視野に入れ— ●プレゼン(個人またはグループ)の分担決定 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案① 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案② 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案③ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案④ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法(アクティブラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出

版)

- ②長崎伸仁・石丸憲一 他『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館出版社)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

- ②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

- ③長崎伸仁『表現力を鍛える説明文の授業』(明治図書)

- ④長崎伸仁他『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究AⅡ(社会科)

■教員名

宮崎 猛・吉田 和義

■授業概要

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試み、模擬的に実践する。なお、教科等の指導開発研究AⅠ(社会科)同様のフィールドワーク臨検を各自の問題意識を前提に再度行う(Iとは異なった場所)ものとする。また、裁判傍聴ないしはそれに類するフィールドワークも参加者の希望によって企画する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	学習指導要領の理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	社会科教育の本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第10回	教材開発の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	教材開発の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自（各グループ）が開発した教材の紹介（プレゼンテーション）とその振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補者）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

（現職教員）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科について、学習指導要領の理解ならびに授業づくりの方法、指導目標の特質等について理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を培う。

■評価方法

○評価方法 振り返り 30% プレゼンテーション・レポート 30% 期末リサーチペーパー 40%

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D（不合格）：59点以下

■使用教材

宮崎猛（編著）『社会科教育の創造 — 基礎・理論・実践—』 教育出版 2009年

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名

教科等の指導開発研究B I (算数)

■教員名

鈴木 将史・鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「算数的活動」である。「算数的活動」は平成 10 年の学習指導要領において初めて登場し、平成 20 年の現行の学習指導要領において、さらにその意義が強調された。各学年の各領域に必ず「算数的活動」が置かれ、あたかも一つの領域のように扱われている。

その一方で、「算数的活動」という言葉が広い範囲に及ぶことから、従来の活動との違いが明確になっていなかったり、その意義が十分には認識されていなかったりする。また、アクティブラーニングとの関係についても、必ずしも明確になっていない。

この授業では、学習指導要領に述べられている「算数的活動」を 1 つ 1 つ 解き明かし、それらを十分に活用した指導法を考え、教材研究・模擬授業を行っていききたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[1] 第 1 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[2] 第 2 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[3] 第 3 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[4] 第 4 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[5] 第 5 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[6] 第 6 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの分析について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○「算数的活動」の授業研究[1] 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第10回	○「算数的活動」の授業研究〔2〕 前回到引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「算数的活動」の理論研究 「算数的活動」とアクティブラーニングとの関係を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「算数的活動」授業例〔1〕 低学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「算数的活動」授業例〔2〕 中学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「算数的活動」授業例〔3〕 高学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「算数的活動」の算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「算数的活動」に関する新しい授業案を開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「算数的活動」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究B I (理科)

■教員名

桐山 信一

■授業概要

本授業では、小中学校の理科教材化について学ぶ。前期は、児童、生徒の実験データの適切な処理方法や授業評価の手法（量的研究法の基礎）を学ぶ。

- ・理科授業における児童、生徒の実験データを想定し、その適切な処理方法やグラフ化の手法を学ぶ。
- ・単元や理科授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する方法に即して、量的研究の手法の統計的基礎を学ぶ。
- ・野外実地調査を行い、取得したデータを学んだ手法を用いて分析する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における学校理科の目標と内容、各学年で求められる探究スキル（科学的リテラシーの基礎） 【準備学習】なし
第2回	アメリカの実践に学ぶ小学校理科における探究スキルの育成 【準備学習】教材①
第3回	児童、生徒の実験データ（自然現象におけるデータ）を想定し、記述統計の基礎（分布と代表値）を学ぶ 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第4回	自然現象におけるデータ間の相関について学ぶ（回帰の基礎、グラフ化） 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第5回	自然現象におけるデータの特徴・分布を学ぶⅠ（二項分布） 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第6回	自然現象におけるデータの特徴・分布を学ぶⅡ（正規分布、t分布） 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第7回	理科授業の有効性を証明するために、推計統計学の基礎的考え方（標本と母集団、推定、検定）を学ぶ 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第8回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅰ（授業前後の比較、学級間の比較を想定、関連2群のt検定の実習、独立2群のt検定の実習） 【準備学習】教材④の前時に指示されたところ
第9回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅱ（アンケートの処理、重回帰分析の実習） ※このテーマは幅広いため後期にも継続して学ぶ 【準備学習】教材⑤
第10回	野外実地調査の方法－放射線測定器の使い方、妥当な測定の仕方－ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第11回	野外実地調査Ⅰ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ

第12回	野外実地調査Ⅱ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第13回	野外実地調査で採取したサンプルのデータ分析Ⅰ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第14回	野外実地調査で採取したサンプルのデータ分析Ⅱ 【準備学習】教材③④の前時に指示されたところ
第15回	おわりにーまとめと課題提示ー 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を教員に指導でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を実施でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を実施することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を理解し、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができる。</p>
--

■評価方法

<p>出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4点/回×15=60）、課題と発表 40%とする。</p> <p style="text-align: right;">※データ処理のためノートパソコンが必要な場面がある。</p>

■使用教材

<p>①慶應義塾機関誌:三田評論、2014年11月号(論文)</p> <p>②桐山信一:小学校理科「物理・天文分野」の指導、大学教育出版、2011年</p> <p>③松井敬:勉強したい人のための統計解析のきほん</p> <p>④柳井久江:4Step エクセル統計 第2~4版、2015年</p> <p>⑤久坂・八木:理科授業の分析スキルを高める統計的手法の検討(論文)</p> <p>⑥過去の桐山ゼミ実地調査報告書など</p> <p>※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。</p> <p>※教材②③④は必ずしも購入しなくてもよいです。①⑤⑥はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。http://home.soka.ac.jp/~kiryama/</p>

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■ **その他**（科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス）

- ① 小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。
- ② 粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。
- ③ 学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

■科目名

教科等の指導開発研究BⅡ(算数)

■教員名

鈴木 将史・鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「割合の指導について」である。「割合」は「分数の割り算」と並んで、ここ数年最も多く取り上げられた「難所」のひとつである。この「割合」について、各教科書はどのように扱っているのか調べ、「何が難しいのか」を明らかにし、そして「どのように指導すればよいのか」について多くのアイデアを出し合っていきたい。

さらに模擬授業を通してアイデアを磨き、現場での指導にも大いに役立つ教材研究としていきたい。教材研究を進めるうちに、「割合」の概念が実は小学校算数のかなり早い段階から現れていること、そして似たような考えが繰り返し現れ、「小数や分数の掛け算割り算」も、同じ考えで指導されることが明らかになってくるであろう。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「割合」に関する教科書の扱い[1] 各教科書における扱いを調べ、その相違について整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「割合」に関する教科書の扱い[2] 前回に引き続き、各教科書における扱いを調べ、整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「割合」指導の困難分析 教科書の内容のどの部分が困難を生じるのか分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「割合」の授業研究[1] 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「割合」の授業研究[2] 前回に引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「割合」の理論研究 「割合」の単元と他の単元との関係性を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○困難解消への工夫[1] 前半で明らかになった各困難項目を克服する新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第10回	○困難解消への工夫[2] 前回到引き続き、新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「割合」についての模擬授業[1] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「割合」についての模擬授業[2] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「割合」から見る「比と比例」 「割合」に関連する単元として、「比と比例」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「割合」から見る「分数の乗除」 「割合」に関連する単元として、「分数の乗除」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「割合」の単元に関する算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「割合」の単元に関する新しい授業案を、教科書の記述を生かしながら開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「割合」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究BⅡ(理科)

■教員名

桐山 信一

■授業概要

本授業では、学習者の科学的リテラシーを育てるための教材化について、粒子・エネルギー領域における今日的課題を踏まえて考察する。前期からの継続履修のみ可能とする(内容の系統性ゆえ、後期のみの履修はできない)。後期は得られた成果から教材を作る教育的技能を養い、その教材の教育的有効性を評価する態度を養う。

- ・理科授業における単元や理科授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する方法に即して、幅広い量的研究の手法を学ぶ。
- ・野外実地調査を行い、取得したデータをこれまで学んだ手法を用いて多角的に分析する。
- ・科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し模擬授業を実施し、相互に評価する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における学校理科で求められる探究スキルと科学的リテラシーの関係を考える 【準備学習】なし
第2回	理科授業の有効性を証明するための手法(χ^2 検定、分散分析、因子分析、クラスター分析の考え方) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第3回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅰ(SPSSによる因子分析、主成分分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第4回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅱ(独立性の検定、クラスター分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第5回	エネルギー問題の現状と課題Ⅰー日本のエネルギー事情ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第6回	エネルギー問題の現状と課題Ⅱー粒子と放射能ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第7回	エネルギー問題の現状と課題Ⅲー核兵器・原子力発電ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第8回	エネルギー問題の現状と課題Ⅳー核実験・原発事故の環境影響ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第9回	野外実地調査Ⅰ 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ
第10回	野外実地調査Ⅱ 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ

第11回	野外実地調査で採取したサンプルのデータを組み合わせた分析 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ
第12回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅰ—教材作成— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第13回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅱ—教材作成— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第14回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅲ—発表と評価— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第15回	おわりに—まとめと課題提示— 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成、実施、相互に評価することについて、教員に指導することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価を実施することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し、実施し、相互に評価することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成することができる。</p>
--

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40%とする。

■使用教材

<p>①小塩真司:SPSSとAmosによる心理・調査データ解析[第2版]</p> <p>②桐山信一:理科概論—エネルギー科学基礎—、創価大学、2014年</p> <p>③過去の桐山ゼミ実地調査報告書など</p> <p>④2014、2015年度に本講座を受講生が作成した指導計画など</p> <p>※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。</p> <p>※教材①②は必ずしも購入しなくてもよいです。③④はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。http://home.soka.ac.jp/~kiryama/</p>
--

■授業で使用する言語

(**日**)・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■ **その他**（科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス）

- ① 小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。
- ② 粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。
- ③ 学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

■科目名

教科等の指導開発研究C(図工)

■教員名

小山 満

■授業概要

はじめにアメリカの美術教育で広く知られるローウェンフェルド(V.Lowenfeld)の美術理論、子どもの絵の発達段階について、この理論が生まれる背景と、その効果を探求し、今後の指導に生かすポイントをおさえる学習をしたい。つぎにチゼック(Franz Cizek)の美術教室について学び、最後にシュタイナー(R.Steiner)の「芸術としての教育」の理論について、現代の教育に生かす方途として妥当か否かを検討する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について紹介する。 【準備学習】ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について調べておく。
第2回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について理解する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について調べておく。
第3回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について疑問点を出し合い検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第4回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、院生によるプレゼンを聞き、問題点を検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第5回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、疑問点を纏める。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第6回	チゼックの美術教育について紹介する。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第7回	チゼックの美術教育について、質疑応答の記録を確認する。 【準備学習】チゼックによる美術教育の質疑応答の記録をチェックしておく。
第8回	チゼックの美術教育について院生のプレゼンで特色や優れた点を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第9回	チゼックの美術教育について行われたプレゼンの課題を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第10回	チゼックの美術教育について全体を纏める。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第11回	シュタイナーの芸術教育について紹介する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について調べておく。
第12回	シュタイナーの芸術教育について優れた点を明らかにする。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について優れた点を調べておく。
第13回	シュタイナーの芸術教育について問題点を検討する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の問題点を調べておく。
第14回	シュタイナーの芸術教育について院生のプレゼンを聞き問題を整理する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の全体を把握しておく。

第15回	上記 3 人の先達の学びを振り返り纏める。 【準備学習】 上記 3 人の先達について振り返っておく。
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

現実の授業でこれらの理論が応用できるか否か、管理者として必要な事項を修得する。

(現職教員)

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、具体的な手法を見出す。

◇人間教育プロフェッショナルコース

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、理論的可能性を明らかにする。

■評価方法

授業の出席状況と取り組みの姿勢、そしてプレゼンテーションの内容で判断します。

■使用教材

V.Lowenfeld “Creative and Mental Growth” 竹内清・堀ノ内敏・武井勝雄共訳『美術による人間形成』黎明書房 1995。

W.Viola “Child Art” ヴィオラ・久保貞次郎・深田尚彦共訳『チゼックの美術教育』黎明書房 1999。

R.Steiner “Erziehungskunst Methodisch-Didaktischers” 高橋巖訳『ルドルフシュタイナー教育講座 II 教育芸術1 方法論と教授法』筑摩書房 1989。子安美知子・上松佑二『シュタイナー芸術としての教育』小学館 1988

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究C(体育)

■教員名 久保田 秀明

■授業概要

体育教科である、保健の授業と体育実技の授業について、学習者のより良い学びを引き出すための実践的な研究を行う。

本授業は、体育学の専門知識と協同学習の理念・実践を基礎にして、保健と体育実技の授業に適用し、体育教育を通して学習者を尊重する力をつけることを目的として行なわれる。

実技や野外活動の要望があれば、適宜加えることがある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	体育教育の重要性 【準備学習】学校教育法の第1条。小学校の教育課程。体育の領域。学習指導要領解説体育編をもとに、体育教育で何ができるか、何をしなければならないかを考察し、意見をまとめる。
第2回	体育教育における協同学習の理念と実践 【準備学習】能力、意見、立場の違いを学びに生かし、他者を尊重する方法について考察しまとめる。
第3回	発育発達曲線と体育指導 【準備学習】スキヤモンの発育曲線、ゴールデンエイジと体育指導の関係について考察しまとめる。
第4回	神経系と運動学習 【準備学習】運動学習を構造的に理解し、それに神経系がどう関与しているかについて考察しまとめる。
第5回	子どもの生理機能と安全な体育指導 【準備学習】発汗、体温調節、水分補給、熱中症、低体温症と体育指導について考察しまとめる。
第6回	野外活動と心の教育(1) 【準備学習】野外活動の種類、指導方法と、参加者の心理的变化について考察しまとめる。
第7回	「情報化社会」と言われる時代と身体運動 【準備学習】インターネットから得られる情報の特性と、身体運動に伴って五感をフルに使って得られる情報の特性について考察しまとめる。
第8回	能力と個性、競争と相互理解 【準備学習】能力の違いをどう生かすか、競争と勝敗をどう生かすかについて考察しまとめる。
第9回	筋の収縮様式とトレーニング効果 【準備学習】身体運動における筋活動の特性と、そのトレーニング効果について考察しまとめる。

第10回	呼吸・循環機能と全身持久力 【準備学習】呼吸・循環機能の仕組みと、全身持久力を向上させる方法について考察しまとめる。
第11回	野外活動と心の教育(2) 野外活動を小学校教育に取り入れる方法と課題、展望について考察しまとめる。
第12回	新体力テストの方法と体育指導 新体力テストの詳細を調べ、実施上の留意点と有効な実施方法について考察しまとめる。
第13回	児童・生徒の体力の現状と体育指導 今日の児童・生徒の体力の現状を調べ、それを改善する指導法について考察しまとめる。
第14回	小学校体育の領域、内容、単元指導計画、評価規準 単元指導計画と評価基準について考察しまとめる。
第15回	まとめ 全体を振り返り、問題のある点を確認する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教科の専門性を高め、教員の指導、助言をすることができる。

(現職教員)

教科の専門性を高め、学習者をより一層リスペクトする授業の実践に役立てることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校は全科であるが、ある教科に対し専門性を持っていることが求められている。

専門知識とともに、学習者を理解する眼と実践する力を備えることができる。

合理的でかつ学習者を徹底的に尊重する授業のデザインがイメージされ、具体的に実践することができる。

■評価方法

学習内容の理解と主体的な研究実践。活発な質疑、応答、及び協同学習への貢献度を総合的に評価する。

■使用教材

パワーポイントを使用する。必要に応じてプリントを用意する。学内外の体育施設を利用することができる。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教科等の指導開発研究D(生活科・総合的学習)**

■教員名 **寺林 民子**

■授業概要

本科目は、「自らの問題解決のプロセスの探究と、生き方を探究する」生活科と総合的な学習の時間について、その意義と本質について理解を深め、具体的な実践の構想の資質を養う。
①生活科は実践事例から、子どもが創る生活科、幼少連携の教育、総合的学習の学びへの発展の視点から、生活科がはたす低学年の子どもの教育の可能性について探究する。②総合的学習の時間はESD(持続可能な社会と平和のための教育)の視点から実践事例を取り上げ考察する。③国際比較の視点から、日本の優れた生活科の実践にみる「子どもの学びの姿とその見取り」、ドイツの生活科やタイの環境学習の取り組みの違いから視座を得る。④学びを生かして授業モデルを作成し、参加者で吟味検討する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースガイダンス 「生き方の探究」としての生活科、総合的学習の時間の独自性と可能性とESD(持続可能な社会のための教育)、環境教育、グローバル教育との関連と発展。世界の教育実践の取り組みについての紹介。 事前準備:シラバスに目を通す
第2回	生活科と総合的学習の時間についての各人の課題の意識化 ディスカッション、各人の問題意識と科目内容の 各人の問題意識を整理してくる。
第3回	生活科・総合的学習の時間のとらえ方 「人生地理学—緒論」、グローバル教育とのつながり 事前準備:配布資料の学習とふりかえり
第4回	生活科の実践とマネジメントの実際 ・実践事例からの考察 事前準備:資料の学習とふりかえり
第5回	生活科の実践と子どもの学び ・教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 事前準備:資料の学習とふりかえり
第6回	生活科の実践と子どもの学びの姿の見とり ・授業記録からの分析 事前準備:実践資料の記録とふりかえり
第7回	教育現場での実際の授業観察 事前準備:授業参観の事前の計画
第8回	教育現場での実際の授業観察 事前準備:授業参観の事前の計画
第9回	総合的学習の時間とESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究① (バンコクの小学校マングローブの林の再生)

	事前研究:ESD についての各人のリサーチレポート。配付資料の学習
第10回	総合的学習の時間と ESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究② (日本の給食牛乳パックのリサイクル) 事前資料:自分の構想(簡略)考察
第11回	ESD から考える総合的学習の時間 各人のリサーチを元にしたディスカッション 事前資料:ESD についての各人のリサーチレポート。
第12回	外部講師による ESD の実践と考え方 事前学習:自己の課題意識の整理と質問準備
第13回	グローバル教育の視点からの実践とその考察 事例研究③宇宙からながめる私の「生命」のつながり 事前学習:自分の構想(簡略)と振り返り
第14回	取材授業・参観授業の協議と分析 事前準備:授業記録の作成、ふりかえり
第15回	学習のふりかえり 事前学習:各人の単元構想

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに学校現場における生活科教育の授業実践のマネジメントと実践研究について指導することができる。

(現職教員)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに自己の実践を省察・吟味することができる。また、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生活科教育。総合的学習の時間について、その指導目標・内容、教材、指導方法、評価などの特質に理解を深め、自分で単元構想を描き、授業実践に活用することができる。生活科を通して子どもの学びの姿をとらえその理解を更新することができる。

■評価方法

ふり返しレポート 30 パーセント、
授業への参加意欲、プレゼン等 40 パーセント、
最終レポート・授業案 30 パーセント

■使用教材

小学校学習指導要領解説 生活科 平成 20 年度版

小学校学習指導要領解説 総合的学習の時間 平成 20 年度版

参考図書『21世紀の学校をひらく トピック別総合学習 ドイツの教育との実践対話』(北大路書房)、「グローバル教育の理論と実践(グローバル教育学会編)、国立教育政策所研究所紀要「世界の総合学習」などその他適宜、資料配布、図書紹介

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究E（外国語活動）

■教員名

近藤 茂代・三津村 正和

■授業概要

『小学校学習指導要領 外国語活動編』で概説されている小学校「外国語活動」の目標・内容を理解し、楽しみながら外国語活動が行えるようになることを目標とする。具体的には、小学校第5・6学年に在籍する児童が、外国語を通した①言語・文化の体験的理解、②コミュニケーションを図ろうとする能動的な態度の涵養、③コミュニケーション能力の素地の育成を図る上での先進的な学習活動について、理論・実践の両面から学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容	
第1回	オリエンテーション(シラバス・授業内容・課題・出席規程等についての説明) ※一旦、V309に集合し、その後、それぞれ該当する教室(リーダー:V309、プロ:V409)に移動	
	【リーダーコース】 (第2～8回:近藤/第9～15回:三津村)	【プロフェッショナルコース】 (第2～8回:三津村/第9～15回:近藤)
第2回	Classroom English/ALT との英会話表現 英語の歌・ゲーム・絵本の活用 【準備学習】英語の歌・ゲーム・絵本調べ	「外国語活動」の目標と実践課題 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読む。
第3回	連携協力校での外国語活動 模擬授業① 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業デザイン:タスク志向型活動 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第4回	連携協力校での外国語活動 模擬授業② 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開①:協同学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第5回	連携協力校での外国語活動①(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開②:プロジェクト型学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第6回	連携協力校での外国語活動②(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開③:ICTの活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第7回	連携協力校での外国語活動③(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開④:演劇の活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第8回	連携協力校での外国語活動④(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	※連携協力校での「外国語活動」授業観察(予定)
第9回	「外国語活動」の授業デザイン:タスク志向型活動 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成す	Classroom English/ALT との英会話表現 英語の歌・ゲーム・絵本の活用 【準備学習】:英語の歌・ゲーム・絵本調べ

	る。	
第10回	「外国語活動」の授業展開①:協同学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動 模擬授業① 【準備学習】:指導案の作成
第11回	「外国語活動」の授業展開②:プロジェクト型学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動 模擬授業② 【準備学習】:指導案の作成
第12回	「外国語活動」の授業展開③:ICTの活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動①(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第13回	「外国語活動」の授業展開④:演劇の活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動②(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第14回	※連携協力校での「外国語活動」授業観察(予定)	連携協力校での外国語活動③(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第15回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。	連携協力校での外国語活動④(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業における積極的な参加態度、模擬授業(或は、プレゼンテーション)の実践、課題(教材・文献の精読、調べ学習、簡単なレポート記述)の達成により、総合的に評価する。

■使用教材

①文部科学省『Hi, Friends! 1・2 市販版児童用テキスト(各95円)・市販版指導編(各114円)』(2012年、東京書籍)、②樋口忠彦他『小学校英語教育法入門』(2013年、研究社、2,000円) ※その他、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究F(道徳)

■教員名

石丸 憲一

■授業概要

本科目は、子供たちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、それらを学校教育のどのような場で育てていくかを考えるとともに、道徳の時間から道徳科に変わることをどう捉え、どう授業し、どう評価したらよいかを考える場とする。いかに本音で話し合うかに重点を置いた授業づくりを考え、さらに模擬授業やプレゼンにより実践的な評価を行い、生きた指導に結びつくようにする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	「授業のねらい、授業計画の把握」 自分の中の道徳教育を振り返り、自分なりの課題をつかむ。 【準備学習】学習に期待すること、自身の道徳教育について振り返ってみる。
第2回	「道徳とは(特に学校教育において)」 新学習指導要領を読むことにより、道徳教育とは何か、何を求められているのかを考える。 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第3回	「道徳の時間と学習指導要領」 昭和 33 年から平成 27 年までの学習指導要領における道徳の時間、道徳科の変遷から道徳教育の不易と流行をつかむ。(グループ活動で検討する。) 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第4回	「道徳の時間と学習指導要領」 第 3 回に検討した学習指導要領の変遷から読み取ることのできる道徳教育の不易と流行をグループごとにプレゼンテーションする。 【準備学習】グループのプレゼンの準備をする。
第5回	「読み物資料を使った道徳の授業」(講義と討議) 道徳科の授業で使用される資料について、その役割と生かした方を講義を通じて理解する。 【準備学習】各グループの発表を整理する。
第6回	「読み物資料を使った道徳の授業」(演習～読み物の分析～)① 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回の配付資料を読み、意見をまとめておく。
第7回	読み物資料を使った道徳の授業 (演習～読み物の分析～)② 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回は扱った読み物資料について、自分だったらどのように授業を作っていくかを考えてみる。

第8回	「読み物資料の開発」(講義と討議) 資料化されていない物語やノンフィクションをどのような観点で資料化し、どのように資料として利用するのかを考える。 【準備学習】読み物資料の開発についてこれまでの実践等を振り返っておく。
第9回	「読み物資料の開発」(演習) 実際に読み物資料を授業することを前提として構想し、プレゼンテーションする。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第10回	内容項目の検討(講義と討議) 道徳教育で扱われている内容項目について分析、考察することで、今後の道徳教育のあるべき姿を考える。 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。
第11回	内容項目の検討(プレゼンテーション①) 友情について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第12回	内容項目の検討(プレゼンテーション②) 思いやり・親切について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第13回	内容項目の検討(プレゼンテーション③) 郷土愛・愛国心について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第14回	内容項目の検討(プレゼンテーション④) 敬虔・畏敬の念について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第15回	まとめと振り返り 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- 道徳教育を何のために行うのかをいろいろな視点から考える中で確立し、それを具現化する資料の扱いや授業の方法を身につける。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、どのように若手教員にアドバイスしたらよいかを考えることができる。

(現職教員)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、よりよい道徳科の授業を作るための改善点を見出すことができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言)やプレゼンテーション、まとめのレポートを総合して評価する。

■使用教材

主としてプリントを用意する。必要に応じて参考文献などを指定する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

特別活動と生徒指導

■教員名

長島 明純 ・ 近藤 茂代

■授業概要

特別活動の意義・課題を明確にするとともに、生徒指導の今日的諸課題の理解と対応について討議する。併せて、特別活動と生徒指導、キャリア教育、道徳教育との関連についても、開発的な援助という側面を大切にしながら、受講者の問題関心に添いつつ有機的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション（自己紹介を含む） 本科目の意図・内容構成、報告分担 概説①「特別活動の意義と課題」 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。
第2回	概説②「生徒指導の意義と原理」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】生徒指導提要 第1章の生徒指導の意義と原理の箇所を読む。
第3回	プレゼンテーション①「よりよい人間関係づくりのための学級活動」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。
第4回	プレゼンテーション②「児童会活動の現状と課題、生徒指導との関連」 「クラブ活動の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第5回	プレゼンテーション③「学校行事（運動会）の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第6回	プレゼンテーション④「学校行事（卒業式）の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第7回	プレゼンテーション⑤「防災教育の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第8回	概説③「児童生徒の心理と児童生徒理解」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】参考図書の該当部分を読む。

第9回	プレゼンテーション⑥「いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。
第10回	プレゼンテーション⑦「不登校問題の現状、解消のための取組と課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第11回	プレゼンテーション⑧「キャリア教育の現状と課題、生徒指導との関連」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第12回	プレゼンテーション⑨「情報化社会における生徒指導の課題と対応」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第13回	プレゼンテーション⑩「児童養護施設、福祉施設等、関係諸機関との連携」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議 教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第14回	特別講師による講話 「児童擁護施設にかかわって(サレジオ学園)」 東京サレジオ学園長 野口重光先生特別講師による講話 その内容に基づき質疑・検討
第15回	まとめ・振り返り。 学びの発表(発表方法については別途検討)

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について深く考察し理解するとともに、課題解決のために関係機関とも連携しながら、組織的な対応ができるよう、他の教員に専門性をもって適切に指導助言ができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義など整理し理解するとともに、関係機関との連携や組織的な対応について、他の教員に自身の実践事例を踏まえ提案することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義や課題を理解するとともに、それを教育現場での組織的な取り組みや関係機関との連携などに生かすことができる。</p>

■評価方法

発表資料や発表態度、授業参加(質問・協議)の積極性などから総合的に評価する。
--

■使用教材

参考図書：「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著, 金子書房. 2008.
「生徒・進路指導論」吉川成司編著, 創価大学通信教育部. 2013.
「生徒指導提要」文部科学省, 教育図書. 2011.

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

学校カウンセリングの現状と課題

■教員名

長島 明純・高野 久美子

■授業概要

本授業科目では、学校カウンセリングに関する演習や事例検討を中心にして、受講者の問題関心に添いながら、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、校内支援体制や関係諸機関との連携などの進め方などについても理解を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>教員からの本授業科目の意図の内容構成に関する提示。子どもの症状とその意味概説。受講生の学校カウンセリングに関する問題関心について整理・共有。</p> <p>【準備学習】学校カウンセリングについての問題関心を整理しておく(参考図書:石隈 利紀著「学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房)。授業を振り返る。</p>
第2回	<p>カウンセリングの基本を概説。誘発線法を実際に体験し、カウンセリングにおける両者の関係性についての理解を深める。</p> <p>【準備学習】カウンセリングの基本について調べておく(参考図書:石佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャーズ クライアント中心療法 新版 --カウンセリングの核心を学ぶ」有斐閣)。授業を振り返る。</p>
第3回	<p>傾聴についての概説とロールプレイ。相手の話を「聴かない」ロールプレイと相手の話を「聴く」ロールプレイ。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p> <p>* 第5回の授業で検討する保護者対応の事例を各自任意で提出</p>
第4回	<p>教育的ニーズのある子どもの保護者理解について解説。「保護者との面談について</p> <p>① 教育的ニーズのある子どもの保護者との面談についてロールプレイを体験する。教師役・保護者役・観察者二人の4人一組で、役割を交代して実習を行う。</p> <p>【準備学習】教育的ニーズのある子どもの保護者に関して調べておく(参考図書:中田洋二郎著「発達障害と家族支援—家族にとっての障害とはなにか」学習研究社)。授業を振り返る。</p>
第5回	<p>教育的ニーズのある児童生徒の保護者への対応について、具体的な事例をもとに検討。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
第6回	<p>「不登校」「引きこもり」について概説。</p> <p>【準備学習】「不登校」「引きこもり」について調べておく(参考図書:藤岡 孝志「不登校臨床の心理学」誠信書房、「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」厚生労働省)。授業を振り返る。</p> <p>* 第8回の授業で検討する不登校の事例を各自任意で提出</p>

<p>第7回</p>	<p>「児童生徒との面談について①」友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談をロールプレイで体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第8回</p>	<p>学校における「不登校」「引きこもり」への対応の在り方などについて、具体的な事例をもとに検討。(事例検討) 【準備学習】「不登校」「引きこもり」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第9回</p>	<p>「いじめ」について概説。「保護者との面談について②」いじめ被害者の保護者との面談についてロールプレイを体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】「いじめ」について調べておく(参考図書:森田洋司著「いじめとは何か―教室の問題、社会の問題」中央公論新社)。授業を振り返る。 * 第12回の授業で検討する児童虐待の事例を各自任意で提出</p>
<p>第10回</p>	<p>現在の学校カウンセリングの大きな課題の一つである「非行」「暴力」について、特別講師より現在の状況など講話していただく。【準備学習】近年の「非行」「暴力」の傾向について、国の研究調査などで確認しておく。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第11回</p>	<p>「児童虐待」について概説。 【準備学習】「児童虐待」について調べておく(参考図書:川崎二三彦著「児童虐待―現場からの提言」岩波書店)。本授業の内容を振り返る。</p>
<p>第12回</p>	<p>学校における「児童虐待」への対応などについて、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】「児童虐待」の事例への対応について検討しておく。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第13回</p>	<p>関係者会議の在り方とチームシートについて概説。校内や学校外の多様な関係機関とのネットワークについても概説。 【準備学習】学校におけるチーム支援について調べておく(参考図書:石隈利紀・田村節子著「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門―学校心理学・実践編」図書文化社)。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第14回</p>	<p>チームシートを活用して、事例をもとにした校内におけるチーム連携を具体的な事例をロールプレイ。(事例検討) 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第15回</p>	<p>学校における危機管理・危機介入の在り方について概説。これまでの授業の整理・まとめ。 【準備学習】危機管理・危機介入の在り方について調べておく(参考図書:窪田由紀他著「学校コミュニティへの緊急支援の手引き」金剛出版)。これまでの授業での学びを整理しておく。本授業の内容を振り返る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育相談にあたる教員や学校に対して、専門性をもって適切に指導助言したり、関係諸機関や

地域と連携した相談体制を組織したり、校内の支援体制の活用も含め学校における教育相談の進め方や関係諸機関との連携の在り方について整理することができる。

(現職教員)

教育相談技能を高めるとともに、校内支援体制の活用や保護者・地域・関係機関との連携を視野に入れた教育相談の在り方について考察し理解を深めことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育相談の基礎的な内容や方法、校内支援体制の活用や関係諸機関との連携などについて理解と習得を深め、現場で主体的に実践することができる。

■評価方法

(1)授業の中での・演習・事例検討・ディスカッションなどへの参画状況。

(2)学校カウンセリングに関する諸問題についてのレポートの充実度。

■使用教材

随時、資料をプリントして配布。その他、随時、授業の中で紹介します。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別支援教育の現状と課題

■教員名 長島 明純・藤原 義博

■授業概要

・本授業科目では、『きみは・・・』との受講者自身への問いかけにより、特別支援教育の現状と課題に迫る。それによって、自らの課題意識や現実の課題に添いながら障害観を育み、学校現場での特別支援教育の実践力を身につける。

・基本的な特別支援教育に関する知識を基に、課題解決の視点から、教育学や心理学等の知見を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	『きみは、特別支援教育から何を学ぶか？』オリエンテーション ・教員からの本授業科目の目的と内容について提示し、受講者より「特別支援教育」に関する関心について表明。(発表担当決定) ・受講者の関心や課題意識について意見交換し、整理・共有。(グループ討議・発表) 【準備学習】特別支援教育に関する関心について整理しておく。
第2回	『きみの知っている気にかかる子は？』 ・自らの経験等を通して、通常学級に在籍する障害児、特別支援学級や特別支援学校等に在籍するさまざまな障害児、書籍や各種メディア等に登場する障害児(者)等について発表。 ・課題とその解決について意見交換し、考察・整理。(グループ討議) 【準備学習】これまで出会った気にかかる子について振り返り、課題について整理しておく。
第3回	『きみは、特殊教育から特別支援教育の流れを理解しているか？』 ・世界的障害観の動向から、我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れを捉え、現在の「特別支援教育とは何か？」と条約・法規、基礎知識を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育への流れの概要を学んでおく。
第4回	『きみは、特別支援学校・特別支援学級を知っているか？』 ・特別支援教育の理念・目的から、学習指導要領を基に、特別支援学校・特別支援学級の教育目的、教育課程、指導内容を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育に関する学習指導要領について学んでおく。
第5回	『きみは、特別支援教育コーディネーターができるか？』 ・特別支援教育コーディネーター・学級担任等の役割(個別指導計画作成、関係機関との連携等)の考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育コーディネーターの役割について学んでおく。
第6回	『きみは、特別支援教育の現状と課題を知っているか？』 ・これまでの本授業での学びを基に、現職教員より経験に基づく現場の話を聞き、自らの考えを整理・深化。(グループ討議)

	<p>【準備学習】第1回から5回までの本授業での学びを整理しておく。</p>
第7回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動・教育支援を正しく理解できているか？』</p> <p>・応用行動分析学を基盤に、障害のある子どもの行動上の問題の理解と包括的な教育的支援、授業づくりの在り方の要点を学ぶ。</p> <p>【準備学習】応用行動分析学の概要を学んでおく。</p>
第8回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動を正しく理解できているか？』</p> <p>・発達障害のある児童生徒事例について、“困った”行動の機能分析とそれを基にした教育的支援などを考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の行動問題への支援事例を学んでおく。</p>
第9回	<p>『きみは、LD や ADHD の児童を指導できるか？』</p> <p>・LD や ADHD の児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】LD や ADHD の児童について学んでおく。</p>
第10回	<p>『きみは、自閉症スペクトラムの児童の指導ができるか？』</p> <p>・自閉症スペクトラムの児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】自閉症スペクトラムの児童について学んでおく。</p>
第11回	<p>『きみは、発達障害児への各発達段階での援助ができるか？』</p> <p>・乳幼児期の発達障害と援助を中心に、学童期・青年期以降の発達障害への援助についても考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の発達段階に応じた援助を学んでおく。</p>
第12回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 1』</p> <p>・発達障害児への「分かって動ける授業づくり」(支援環境、支援ツール等)を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】「分かって動ける授業づくり」について学んでおく</p>
第13回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 2』</p> <p>・授業における発達障害のある児童生徒への個別的・集団的支援の工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児への個別的・集団的支援について学んでおく。</p>
第14回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 3』</p> <p>・発達障害児への学習プロセス(単元学習、授業展開等)における工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児への学習プロセスについて学んでおく。</p>
第15回	<p>『きみは、これまでの学びを学校現場でどのように活かすのか？』</p> <p>・これまでの講義内容を整理・考察し、今後の学校教育現場で果たすべき自らの役割の在り方を整理・考察。</p> <p>【準備学習】本授業での学びを整理しておく。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・特別支援教育に関する今日的課題について深く理解考察することができる。
- ・発達障害児等への対応、校内支援体制づくりや関係諸機関との連携等について、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。

- ・特別支援教育コーディネーターとして、発達障害児等への対応、校内支援体制の活用、関係諸機関との連携等ができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・発達障害等の適切な対応ができる。授業や生徒指導で活用することができる。

■評価方法

- (1) 特別支援教育に関する諸問題についての研究の報告
- (2) 授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3) 授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

- ・「教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド」(藤原・平澤 編著), 学苑社, 2011
- ・「特別支援教育における授業づくりのコツーこれならみんな分かって動ける」(藤原 監修・著), 学苑社, 2012

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

子どもの人権を保障する学校文化の形成

■教員名

三津村 正和

■授業概要

いじめの解決にあっては、教師一人ひとりがいじめ予防を自らに課せられた「教育的責務」更には「教育的使命」と捉え、いじめを起ささない学校文化を再構築するためへの主体的で自律的な態度をいかに育成するか、私たちの意志と想像力を働かせることが何よりも重要である。本科目の履修者は、いじめ解決を学校教育の中心課題に据える体制を再整備するにあたっての理論と実践法の獲得が期待される。

上述のような目標を達成するための本科目の到達目標は、次の通りである。①いじめに関する国内外の先行研究に精通し、「いじめとは何か」についての各研究者の考えを比較する、②過去のいじめ事例を分析し、いじめの4層構造（被害者、加害者・聴衆、傍観者）への働きかけを検討する、③教師の意識変革を志向する「いじめ予防プログラム」を設計する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション：いじめ研究への導入、いじめの定義・現状と課題 【準備学習】文部科学省、「いじめ防止対策推進法（第2条）」のいじめの定義について、確認する。
第2回	いじめにどう立ち向かうのか(1)：「人間教育」といじめ① 【準備学習】教材①（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第3回	いじめにどう立ち向かうのか(2)：「人間教育」といじめ② 【準備学習】教材①（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第4回	いじめ先行研究の考察（1）：森田洋司のいじめ観① 【準備学習】教材②（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第5回	いじめ先行研究の考察（2）：森田洋司のいじめ観② 【準備学習】教材②（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第6回	いじめ先行研究の考察（3）：今津孝次郎のいじめ観 【準備学習】教材③（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第7回	いじめ先行研究の考察（4）：竹川郁雄のいじめ観 【準備学習】配布資料を読み、討論に備える。
第8回	いじめ先行研究の考察（5）：内藤朝雄、ダン・オルヴェウスのいじめ観 【準備学習】配布資料を読み、討論に備える。
第9回	「いじめ防止対策推進法」重要条文の解説と学校における展開 【準備学習】「いじめ防止対策推進法」及び配布資料を読む。
第10回	いじめの4層構造（1）：被害者と傍観者のエンパワーメント 【準備学習】教材④（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第11回	いじめの4層構造（2）：加害者と聴衆の心理 【準備学習】教材④（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第12回	「いじめ予防プログラム」国内外例 【準備学習】教材⑤（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。

第13回	いじめ予防プログラムの設計・開発① 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第14回	いじめ予防プログラムの設計・開発② 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第15回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動等の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業への参加態度、課題教材・文献の精読、リフレクションジャーナルの記述、プレゼンテーションにより、総合的に評価する。

■使用教材

①中嶋博行『君を守りたい：いじめゼロを実現した公立中学校の秘密』（2006年、朝日新聞社、絶版）、②森田洋司『いじめとは何か―教室の問題、社会の問題』（2010年、中央公論新社、799円）、③今津孝次郎『いじめ問題の発生・展開と今後の課題―25年を総括する』（2007年、黎明書房、2,808円）、④山脇由貴子『教室の悪魔：見えない「いじめ」を解決するために』（2006年、ポプラ社、950円）、⑤武田さちこ『子どもと学ぶいじめ・暴力克服プログラム：想像力・共感力・コミュニケーション力を育てるワーク』（2009年、合同出版、1,836円）

※①以外の教材は、履修者に購入が求められる。他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育行政・学校経営の現状と課題**

■教員名 **井上 伸良・近藤 茂代**

■授業概要

教育行政・学校経営における重要な各テーマについて、その概要と現状における課題の報告、関連する判例紹介・検討という2つの角度から履修者(各回2名)に報告してもらい、討議する。また、教職としての実践力の向上に資する視聴覚教材の鑑賞、行政職員や校長等の講義も予定している。なお、ゲストスピーカーの都合により、授業の一部について、日時が変更・延長するなど、変則的となる可能性がある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	① 授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 ② 科目テーマに関する目標の明確化、要望提出 【準備学習】シラバスを確認し、この科目で自分が学びたい内容を明確にするとともに、関心のあるテーマの判例を探す。
第2回	学校事故とその防止対策について(発表:25分×2名) 【準備学習】どのような事故が起きているのかについて調べておく。公立学校と私立学校の違いについても調べておくことが望ましい。
第3回	懲戒、出席停止、体罰禁止について(発表:25分×2名) 【準備学習】学校教育法、同法施行規則、「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」(文部科学省通知)等を確認しておくこと。
第4回	いじめ防止対策について(判例報告のみ。発表:25分×1~2名) 【準備学習】いじめ防止対策推進法、「いじめ防止等のための基本的な方針」(文部科学大臣決定)を確認しておくこと。
第5回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について①(発表:25分×2名) *「心理療法カウンセリング講座」のDVD視聴も行う 【準備学習】スマートフォンに関する社会調査を1つ調べてくること。
第6回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について② 「心理療法カウンセリング講座」DVDの視聴等を基にした討議 【準備学習】
第7回	教職員団体について(発表:25分×2名) 【準備学習】教職員団体の役割や沿革について理解しておくこと。
第8回	学校評価について(概要と現状・課題報告のみ。発表:25分×1~2名) 【準備学習】出身校や勤務校の学校評価について調べてくること。
第9回	個人情報・著作権について(発表:25分×2名) 【準備学習】個人情報保護法、著作権法に目を通してくること。
第10回	教育行政・学校経営の実情と課題について教育委員会職員による講話 【準備学習】例規集などを参考として、質問を用意しておく。
第11回	家庭裁判所調査官による非行少年の現状と対応に関する講義① 【準備学習】家庭裁判所調査官の職務について調べておくこと。

第12回	家庭裁判所調査官による非行少年の現状と対応に関する講義② 【準備学習】第2回～第6回の授業内容を見直しておくこと。
第13回	履修者による学校経営・教育行政への提案①(全員発表) 【準備学習】各自が考える課題と解決策について発表準備を行うこと。
第14回	履修者による学校経営・教育行政への提案②(前回の発表を踏まえた討議) 【準備学習】前回の発表を確認しておくこと。
第15回	まとめ。教育行政・学校経営に関する総括として担当教員から講義を行う。 【準備学習】授業内容を見直して臨むこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。また、学校現場で発生しうる法的トラブルについて判例を通して理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題点とされている内容、近時の議論)について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表態度、授業参加の積極性などから総合的に評価する。

■使用教材

最新年度の教育法規集を持参することが望ましい。

判例に関しては、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、「判例時報」「判例タイムス」などにあたるとよい。ウェブ上での判例検索システムが活用できる判例もある。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

学級のデザインと子ども同士の関係づくり

■教員名

田村 修一 ・ 関田 一彦

■授業概要

前半では、これまでの様々な学級経営論(原理・方法)をふまえて、現在の日本における学級経営の課題を把握する。後半では、学級担任に必要な「学級集団アセスメント」および「学級経営コンサルテーション」の理論と技法について演習を通して学ぶ。さらに、今後の「学級経営」と「子どもの同士の関係づくり」に生かせそうな心理学や協同学習分野で研究されてきた新しい取り組みを紹介し、より良い学級経営に在り方と具体的実践方法について研究を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 受講者各自の「本科目における学習目標の設定」 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学級経営の原理・方法 <様々な学級経営論> (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	日本における学級経営の現代的課題(1) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第4回	日本における学級経営の現代的課題(2) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第5回	教師のクラス・マネジメント (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	受講者各自の「本科目における学習目標の(中間)振り返り」 【準備学習と復習】
第7回	学級集団の育成(1) 学級集団のアセスメント:Q-Uの活用 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	学級集団の育成(2) 学級経営コンサルテーション(K-13法)① (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	学級集団の育成(3) 学級経営コンサルテーション(K-13法)② (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	学級集団の育成(4) 学級経営コンサルテーション(K-13法)③ (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	学級集団の育成(5) 学級経営コンサルテーション(K-13法)④ (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	学級経営の新しい試み「学級力向上プロジェクト」 ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第13回	子ども同士の関係作り(1) 「クラス会議」(アドラー心理学)の活用 【準備学習と復習】
第14回	子ども同士の関係づくり(2) アドベンチャー・プログラムの活用 【準備学習と復習】

第15回	受講者各自の「本科目における学習目標の(最終)振り返り」 【準備学習と復習】
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、学校内の全教員に対して、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について指導・助言ができる。

(現職教員)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について、同僚教員に適切な助言をすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

安定した学級経営ができるための基本的な理論と技法を身につける。

■評価方法

プレゼンテーション、ポートフォリオ、課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【学生によるプレゼンの基本資料】

『日本の学級集団と学級経営』 河村茂雄 著 図書文化 2010年

『学級力向上プロジェクト』 田中博之 編著 金子書房 2014年

【田村 担当】

『教師のためのクラス・マネジメント入門』 岡本 薫 著 日本標準 2008年

『Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』 河村茂雄 著 図書文化 2004年

『集団の発達を促す学級経営』 河村茂雄 他 著 図書文化 2012年

【関田 担当】

『クラス会議で子どもが変わる:アドラー心理学でポジティブ学級づくり』

ジェーン・ネルセン他 著(会沢・訳、諸富・解説) コスモス・ライブラリー 2000年

『クラスの力を生かす:教室で実践するプロジェクト・アドベンチャー』

プロジェクト・アドベンチャー・ジャパン 著 みくに出版 2013年

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教員研修実務研究

■教員名

若井 幸子・近藤 茂代

■授業概要

教員研修の歴史・目的・内容・方法・運営・評価に関する理論と技法を講義と演習を通して学び、各種教育委員会(東京都・八王子市)が主催する教員研修会の実務経験を通し教員研修に関する学びを深める。リーダーコースは所属校での経験を生かす研修とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 本授業の概要と進め方 評価方法についての説明 教員研修の歴史および概論
第2回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討① (講義・討議) 【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第3回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討② (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第4回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討③ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第5回	八王子市教育委員会における研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第6回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討④ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属稿の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第7回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑤ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第8回	東京都教職員研修センターにおける研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第9回	八王子市教育センターにおける実務研修① 復習:研修記録を書く
第10回	八王子市教育センターにおける実務研修② 復習:研修記録を書く
第11回	八王子教育センターにおける実務研修③ 復習:研修記録を書く
第12回	東京都教職員研修センターにおける実務研修① 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第13回	東京都教職員研修センターにおける実務研修② 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第14回	東京都教職員研修センターにおける実務研修③ 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第15回	実務研修感想 レポート作成 校内研修(案)の発表 プレゼン・討議 等 【準備学習】:レポート等の用意 復習:振り返りをまとめる

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

校長・副校長・指導主事として総合的な立場から教員研修を計画し、運営する能力を身につける。

(現職教員)

スクールリーダーとして、同僚教師達の実践的指導力を高められる校内研修を計画し、運営する能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教員研修の目的・内容・方法・運営・評価について理解し、校内研修を計画・運営するための基礎的スキルを身につける。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、リフレクションペーパー、校内研修案や討議、プレゼン、学期末レポートなどを通して総合的に評価する。

■使用教材

『教師改革のゆくえ』 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編 創風社 2006年
『研修の効果的な運営のための知識・技術(3訂版)』 独立行政法人教員研修センター編 平成23年3月

その他 必要に応じて提供する

教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割**■教員名** 坂本 辰朗 ・ 鈴木 詞雄 ・ 三津村 正和**■授業概要**

現代の学校と教員の役割が、生涯学習・国際化・情報化社会の進展に伴い、どのように変容しつつあるかについて認識すること、さらにその変容に適切に対応するためには、学校と教員はどのような課題を解決していくべきかを理解する。本コースには討議・発表など種々の授業形態が組み込まれているが、その詳細については第1回目のオリエンテーションで説明する。なお、本年度は、国際化・情報化社会における教育課題を中心に実施する予定である。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 社会変化の中における教育課題
第2回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割①（三津村） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第3回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割②（三津村） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第4回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割③（鈴木） 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。
第5回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割④（鈴木） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第6回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑤（坂本） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第7回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑥（坂本） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第8回	国際化・情報化社会と教育課題①（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第9回	国際化・情報化社会と教育課題②（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第10回	国際化・情報化社会と教育課題③（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第11回	国際化・情報化社会と教育課題④（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第12回	国際化・情報化社会と教育課題⑤（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第13回	国際化・情報化社会と教育課題⑥（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第14回	学期末プレゼンテーション①（個人或はグループ） 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

第15回	学期末プレゼンテーション②（個人或はグループ） 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるか、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

（現職教員）

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

現代の学校と教員の役割が、国際化・情報化社会状況の中で、どのように変貌しつつあるか、授業で取り上げた基礎概念を使用しつつ説明できるか、授業における報告内容、中間のレポート、学期末のプレゼンテーションにおける内容を総合して評価する。

■使用教材

授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

（**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名

子ども理解・保護者理解

■教員名

田村 修一

■授業概要

日々の教育実践の中で、教師が自らの「人間観」「子ども観」「教師観」について考えを深めていくことは大変重要なことである。また、教師には子どもや保護者の援助ニーズを的確につかみ、効果的な援助できるための技術(スキル)も必要である。このような子どもや保護者に対する「アセスメント能力」や「指導・援助サービスのスキル」の向上に役立つ学問として「学校心理学」が注目されている。そこで本科目は、「学校心理学」の理論と技法を基盤として、子どもや保護者に対する「アセスメント能力」を高め、賢いアセスメントに基づいた「心理・教育的援助サービス」を学校で十分に展開できる能力を培う授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 生涯発達の観点から、現代の子ども達の育ちについて考える（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	人間理解のための心理学(1) 心理学研究の3つのアプローチ ①「精神分析理論」②「行動主義理論」③「人間性心理学」（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	人間理解のための心理学(2) 学校心理学概論① 学校心理学の定義と必要性、世界の学校心理学の動向（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	人間理解のための心理学(3) 学校心理学概論② 心理教育的援助サービスの基礎概念、三段階の援助サービス(講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	「環境としての教師」のアセスメント(1) 「リフレーミング」の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第6回	「環境としての教師」のアセスメント(2) オランダの教師教育から学ぶ：自分の「教育観」の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	「環境としての教師」のアセスメント(3) 「RCRT」の活用：自分の「子ども観」の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	子どものアセスメント(1) 学習面のアセスメント① 知能検査(WISC)の活用 (講義) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	子どものアセスメント(2) 学習面のアセスメント② 知能検査(DAM)の活用 (講義・演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

第10回	子どものアセスメント(3) 心理・社会面のアセスメント① 描画法(バウムテスト)の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	保護者理解のために(1) エゴグラム(交流分析): 自己の養育態度の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	保護者理解のために(2) 「苦情を申し立てる保護者」の理解と対応(1) 基礎 編 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第13回	保護者理解のために(3) 「苦情を申し立てる保護者」の理解と対応(2) 難しいケース 編 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第14回	教師のメンタルヘルス・マネジメント(1) 教師のバーンアウトとセルフ・チェックの重要性 (講義・演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	教師のメンタルヘルス・マネジメント(2) 職場のリーダーのためのメンタルヘルス・マネジメント (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得し、他の教職員に適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

子ども・保護者を正確に理解できる能力、感受性を培い、学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、学校や保護者の立場に柔軟に対応できるスキルを習得する。

■評価方法

平常点(出席・授業の参加態度)、および「課題レポート」により、総合的に評価する。

■使用教材

『よくわかる学校心理学』 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著
ミネルヴァ書房 2013年

『教師教育学: 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』 フレット・コルトハーヘン
(武田信子・今泉友里 訳) 2010年

『生涯発達の中のカウンセリングⅡ: 子どもと学校を援助するカウンセリング』 石隈利紀・藤生英行・田中輝美 編 サイエンス社 2013年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間的成長に関する理論と実践

■教員名

長島 明純

■授業概要

人間的成長に関する発達心理学や精神分析等の知見、自己理解を深める演習等の学びを通して、児童生徒やその保護者への理解を深めると共に、教員としての自らの生き方・在り方についても検討する。各々の人間観・教育観を深めながら、現在の学校教育の課題を克服するための方途を探る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>授業のねらいや全授業の流れ、進め方等オリエンテーションする。自分の弱さをも受容する大切さを人間的成長に関する視点から検討する。本授業に関する受講者の関心や課題意識について意見を表明してもらう。</p> <p>【準備学習】本授業に関する関心や問題意識を整理しておく。人間的な成長とは何か発達との関係も含め考えておく。本授業内容を振り返る。</p>
第2回	<p>家と木と人を描く HTP 法で絵を描く。演習を通して、演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第3回	<p>発達心理学の知見を参考にしながら、私の成立に関係する一者の世界、二者の世について概説する。外的対象と内在化、内的対象と対象恒常性等の精神分析の知見も紹介し、私の成立に関する視点を豊かにする。世代間伝達等生涯を通じた親子の相互作用についても紹介する。これらの知見を参考にしながら、親子の関係が難しくなる要因についても検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第4回	<p>相互なぐり描き法(一人が紙になぐり描きをし、続いてもう一人が、そのなぐり描きの線から連想した絵を描く。この過程を、順序を交替して数回繰り返す。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第5回	<p>私の成立に関係する三者の世界について、情動の共有、情動的コミュニケーションと知的コミュニケーション、共同注視、世界の敷き写し等の発達心理学の知見を紹介しながら概説する。移行対象や自閉対象等の精神分析の知見も紹介しながら、私の成立に関する視点を豊かにする。本授業の知見等参考にしながら自閉的な児童生徒への支援について検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第6回	<p>相互なぐり描き法で描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。言葉の力や物語ることの意味について検討する。発達心理学の一次的なことばと二次的なことばについての知見等も紹介する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第7回	<p>風景構成法(川や山等の風景のアイテムを指示された順番に描いていく)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の</p>

	<p>教育の在り方を考える。</p> <p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、教師自身の人間的成長および今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第8回	<p>人間の脳の特性について、記憶と忘却を中心に概説する。心的外傷ストレスやフラッシュバックについても紹介する。これまでの授業を踏まえ、今後の学校教育でどのような工夫が必要なのか、そのために教員自らの在り様について、どのような配慮が大切なのか等検討し整理する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第9回	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第10回	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第11回	<p>分析心理学のシャドーや個性化等の知見を紹介しながら検討し、人間的成長についての視点を豊かにする。嫌なものの処理に関する、精神分析の防衛や転移、抑圧や乖離等の知見も紹介し、人間的成長に関する理解を深める。本授業の知見等参考にしながら発達に特性があり反抗的な児童生徒への支援について検討する。</p> <p>【準備学習】自分にとって苦手なものについて整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第12回	<p>コラージュ法(自分で選んだ雑誌や広告等から写真や絵等を切抜き、台紙に貼る)と相互コラージュ法(自分が選んだ雑誌や広告等から、自分がほしいだろうと思う写真や絵等を相手が選ぶ。その選んだくれた切抜きの幾つかを台紙に貼る。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。コラージュ法で使う雑誌等を集めておく。本授業内容を振り返る。</p>
第13回	<p>個人の無意識や集団の無意識に関して、個人と組織・社会のシステムとの関係も含めて概説する。その際、精神分析の投影や取り入れ、巻き込み等の知見等も紹介する。学校における児童生徒や教職員の集団づくりについて検討する。人と人との‘間’に生きている人間の特性や自己理解と他者理解の相互的な関係等も解説する。</p> <p>【準備学習】参考図書等から精神分析の投影の概念等調べておく。前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第14回	<p>合同描画法の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>

第15回	<p>基本的信頼関係と愛着、自立と依存の問題を、発達心理学や精神分析の母子相互作用やグッドイナフマザー等の知見を紹介しながら概説する。分析心理学の元型の概念に関連する母なるもの・父なるものや内なる子ども等の知見も紹介する。本授業の知見等参考にしながら家庭環境があまりよくない児童生徒の自立のための支援について検討する。</p> <p>【準備学習】全授業を振り返り、ここでの学びを整理しておく。</p>
-------------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解を深めるとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を深く考察し、現場の対応について他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。

(現職教員)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、他の教員に対して提案することができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を適切に考察し、現場の対応について他の教員に提案したり助言したりすることができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

- ・人間的成長に関する諸課題について理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言等に生かすことができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を考察し、現場の対応に適切に生かすことができる。

■評価方法

- (1)授業の中での質問・協議への参画状況。
- (2)人間的成長に関する諸問題についての講義や協議(ワークショップ)を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

参考図書

- 小此木啓吾・河合隼雄著『フロイトとユング』(講談社学術文庫)、講談社、886 円。
- 三木成夫著『生命とリズム』(河出書房新書)、河出書房新社 918 円。
- 浜田寿美男著『「私」とは何か』(講談社選書メチエ)、講談社、1944 円。
- 河合隼雄『河合隼雄のカウンセリング入門—実技指導をとおして』創元社 1620 円。
- 河合隼雄『カウンセリングの実際問題 岩波現代文庫』岩波書店 1339 円。
- ※ 随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教員の服務と教育法規

■教員名

井上 伸良

■授業概要

地方公務員法、教育公務員特例法などに規定される教員の服務に関連する条文規定について、判例の検討を行う。実際の事案を通して、教員として起こりうる服務上の法的な問題点について自覚を深められるようにしたい。履修者(各回1名。例外的に2名発表も考慮する)に 45 分程度で報告してもらい、討議する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	① 授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 ② 科目テーマに関する目標の明確化、要望提出 【準備学習】シラバスを確認し、この科目で自分が学びたい内容を明確にするとともに、関心のあるテーマの判例を探しておくこと。
第2回	宗教的中立性について(発表:50分) 【準備学習】日本国憲法第20条、教育基本法第15条を判例含め確認。
第3回	政治的中立性、争議行為の禁止について(発表:50分) 【準備学習】教育基本法第14条を判例含め確認。
第4回	政治的行為の制限について(発表:50分) 【準備学習】政治的行為(人事院規則14-7)を確認。
第5回	信用失墜行為の禁止について①(発表:50分) 【準備学習】教員の信用失墜行為を特集した教育雑誌記事等を調べておく。
第6回	信用失墜行為の禁止について②(発表:50分) 【準備学習】第5回に同じ。
第7回	職務専念義務について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第32条関連の判例を複数確認しておく。
第8回	研修について(発表:50分) 【準備学習】公立学校の研修制度の変遷について調べておく。
第9回	生徒指導(体罰禁止)について(発表:50分) 【準備学習】体罰に関する最近10年の文部科学省通知を確認しておく。
第10回	生徒指導(注意義務違反が問われた事案)について(発表:50分) 【準備学習】学校事故の種類および賠償責任の傾向について確認しておく。
第11回	教員人事(転任)について(発表:50分) 【準備学習】在籍あるいは志望する都道府県の人事・昇任システムについて調べておく。
第12回	秘密を守る義務について(発表:50分) 【準備学習】教員(OB)として問題となった事案について調べておく。
第13回	法令・上司の職務上の命令に従う義務について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第32条の判例を確認しておく。

第14回	兼業の制限について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第38条の判例を確認しておく。
第15回	まとめ。総括討議。 【準備学習】授業内容を見直して臨むこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。学校現場で発生しうる法的トラブルについて判例を通して理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題点とされている内容、近時の議論)について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表態度、提出物などから総合的に評価する。

■使用教材

『解説教育六法』三省堂(できるだけ新しい年度のものを持参すること)。

判例に関しては、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、「判例時報」「判例タイムス」などにあたるとよい。ウェブ上での判例検索システムが活用できる判例もある。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

分野別科目

■科目名 **学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン**

■教員名 **長崎 伸仁 ・ 三津村 正和**

■授業概要

本授業科目は、各学校における教育内容の国家的基準である学習指導要領の意義と基本的性格を的確に理解できるように展開する。また、各教科の学習指導要領の現行までの変遷を概観し、現在どのような教科カリキュラムが求められているのかを、各受講者の問題関心や実務経験に即して、デザインする。

さらに、平成20年版学習指導要領より、児童生徒が身につけるべき学力として重要度が増している「思考力・判断力・表現力」、また中教審答申（平成24年8月28日）において言及され、高等教育における普及・定着から今後、初等・中等教育への更なる応用・展開が見込まれる教授・学習法としてのアクティブラーニングについて、それらの育成と活用を教科カリキュラムの上に具体的にデザインする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 <ul style="list-style-type: none">● 平成20年版学習指導要領と平成10年版学習指導要領の「総則」等の比較● 平成26年12月22日付けの中教審答申から見えてくること● 教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科の確定 【準備学習】平成20年版・10年版学習指導要領を学習しておくこと。
第2回	<講義>アクティブラーニングを取り入れた教科カリキュラムのデザイン：単元・学期・年間を見通したカリキュラムのデザイン 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第3回	<講義>アクティブラーニングの理論と実践（1）：「教育学」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニングとは何か、何のためのアクティブラーニングか、ディープ・アクティブラーニングの考え方） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第4回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（2）：「教育方法学」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニングの多様な学習形態：協同学習、PBL等） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第5回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（3）：「教育工学」から見たアクティブラーニング（学習意欲のデザイン：ARCSモデル） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成
第6回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践（4）：「学習課題」から見たアクティブラーニング（アクティブラーニング型授業における学習課題の設定） 【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成

第7回	<講義・演習>アクティブラーニングの理論と実践 (5) : 「人間教育」から見たアクティブラーニング (教師の振る舞い、魅力のある授業とは) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第8回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (1) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第9回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (2) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第10回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (3) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第11回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (4) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第12回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (5) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第13回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (6) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第14回	<発表・討議>アクティブラーニングを取り入れた各教科のデザイン (7) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第15回	本授業科目のまとめ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導的な立場にある管理職候補者は、国の方針や都道府県等教育委員の方針を踏まえつつも、各学校等の現状や児童生徒の現況に鑑みて、どのような教科カリキュラムであるのが適切なのかを、現行の学習指導要領やアクティブラーニングの考え方を基に思考し判断することができる。

(現職教員)

アクティブラーニングの理論と応用を理解した上で、「思考力・判断力・表現力」は、どのような教科カリキュラムをデザインすることで育まれるのか究明することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

アクティブラーニングの基本的な考え方を理解するのとともに、各教科の特性を把握した上で、児童生徒のどのような力をどのようにすれば育むことができるのかを、教科カリキュラムをデザインすることで探求することができる。

■評価方法

- 15回の全授業での演習等での参画状況。
- 個人またはグループでのプレゼンテーションや最終レポートの充実度。

■使用教材

- 長崎伸仁[監] (2016) 『アクティブラーニングでつくる国語の授業』 (東洋館出版)

- 稲垣忠・鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』（北大路書房）
- 平成 20 年版の「学習指導要領」「学習指導要領(解説編)」
- 平成 26 年 12 月 22 日付け「中教審答申(抜粋)」
- 他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学校カリキュラムと教育研究推進の組織化**

■教員名 **寺林 民子 ・ 若井 幸子**

■授業概要

本科目は、児童・生徒が学校生活全体を通して学び習得するカリキュラムの効果的経営の原則と基本方策を的確に理解されることをねらいとしている。すなわち、各学校で日々展開される個別の教授・学習活動(授業)は、その学校のカリキュラムとして統合され、銘々の児童・生徒にとっての豊かな学習に結びつくように、教員側が教育研究推進の仕組み(体制)をどのように整え、運営すればよいかを究明する授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 科目授業の意義 履修生の学びの紹介 準備学習:シラバスの確認
第2回	各人の課題意識とこの科目で学びたいこと 準備学習:自己の現時点での課題意識学びたいこと 勤務校(実習校)の教育経営資料の収集
第3回	学校カリキュラムの効果的経営原則(1) 子どもの個の学び —個別児童・生徒対象の学習アセスメントの意義・方法— 準備学習:配布資料の学習
第4回	学校カリキュラムの効果的経営原則(2) 指導者の立場 —指導担当教員対象のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、①学習評価と②教育活動評価 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第5回	学校カリキュラムの効果的経営原則(3) —学校総体のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、③学校経営評価 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第6回	学校カリキュラムの効果的な経営原則についてのディスカッション 4つの評価の連続性、④学校評価 準備学習:1回から5回までの学習を踏まえた課題意識の明確化
第7回	勤務校の事例とその分析(1) 学生の報告とディスカッション 準備学習:配布事例(4題)について取り組みの様子と課題の把握と分析
第8回	勤務校の事例とその分析(2)(3) 学生の報告とディスカッション 準備学習:配布事例について取り組みの様子と課題の把握と分析
第9回	先進的な学校の事例とその分析(4) 準備学習:配布事例についての読み込みと分析

第10回	校内教育研究推進体制の構造と運営(1) 準備学習:自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第11回	校内教育研究推進体制の構造と運営(2) 準備学習:自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第12回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(1) 先進的な学校の事例研究 準備学習:配布資料の学習とふりかえり
第13回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(2) 講師招聘(群馬大学:黒羽教授、本学 西 穰司教授)学生の報告とディスカッション 準備学習:配布資料の読み込みと分析
第14回	科目授業学びと今後の取り組み 準備学習:各自のテーマ
第15回	本授業科目全般のまとめ 準備学習:本科目授業を通して明らかになったこと考察についてのレポート 履修者のみの冊子として配布し学びの資料とする

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用でき、組織体制の構築を指導できる。

(現職教員)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用できる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての冷静かつ的確な理解を得るとともに、その具体的な展開事例についての取材・分析・整理の作業を遂行する。

■評価方法

- (1) 第14回までの演習での質問・協議への参画状況
- (2) 各学校の効果的なカリキュラム経営に関する基本認識の的確性と事例研究での取り組み状況・成果を反映した最終レポートの充実度。

■使用教材

『教育経営と教育課程の編成・実施』日本教育経営学会編〔日本教育経営第4巻〕
ぎょうせい 1987
『子どもが自分を生きる授業—自己変革を促す校内研修』(富山市立堀川小学校)明治図書
『授業記録による授業改革のプロセス』東海市小・中学校教師の挑戦
名古屋大学・東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004

■授業で使用する言語

(**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 **個の学びの支援と学習デザイン**

■教員名 **寺林 民子・小田 勝巳**

■授業概要

個の理解について米国の事例、日本の事例から、「個」や、個の性質についての各人の捉え方について吟味する。次に日本における「個に応じた指導のとらえかたやその指導法」が導入された経緯を理解し、「個に応じた指導」を実現するためには、「個」の捉え方が規定として重要であることに理解を深め、それを実践に生かすことができる資質を養うことか目的である。そのため、演習を中心とした学びとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ・個の把握の教育における意味 ・各人の問題意識の掘り上げ、個に関わる指導のイメージのとらえ方
第2回	「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し① 準備学習:「個の成長」の学習
第3回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 事前学習:『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第4回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 事前学習:『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第5回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習① 事後学習:演習からのふりかえり
第6回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習② 事後学習:演習からのふりかえり
第7回	子どもの「個」の確立のために 個性追求の視点(日本) 事前学習:『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習
第8回	「個に応じた指導」諸外国の事例の比較 「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し②
第9回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)① 事前学習:配布資料の学習
第10回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)② 事前学習:配布資料の学習

第11回	「個」の性質、「個」とは何か 事前学習:『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習、配布資料の学習
第12回	「個」をとらえる一幼児教育の事例からの考察 事後学習:視聴資料のふりかえりと考察
第13回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる① 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味
第14回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる② 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味
第15回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる③ 事前学習:配布資料の学習 事後学習:共同しての解釈のふりかえりと吟味

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導法の違いによる影響や効果をふまえた上で、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方について体系的に理解するとともに、児童理解の規定である「個」の捉え方について個々の教員や学校単位での授業の計画と実践の場面において指導助言をすることができる。

(現職教員)

指導法の違いによる影響や効果をふまえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方と課題の解決に向けた実施策を提案する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

指導法の違いによる影響や効果を踏まえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解し、計画・実施に必要な準備や条件等を整理するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方とに基づいて授業を計画する。

■評価方法

授業時のプレゼンテーションやレポート、最後にまとめとして提出するレポートを資料として総合的に判断する。

■使用教材

『子どもの学びと自己形成—子どもの危機を救うこれからの評価観』堀川小学校(明治図書)
『個の成長—可能性の開発をめざして—』堀川小学校(明治図書)『個性の見方育て方』重松鷹泰(第三文明社)『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編(ミネルバ書房)
『学校と教育』デューイ(岩波文庫)

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究 A I (国語)

■教員名

長崎 伸仁 ・ 石丸 憲一

■授業概要

新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた文学教材の授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から展開する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○目標と進め方を知る。(担当—長崎・石丸) ○後藤富士夫実践「かさこじぞう」のビデオを視聴し、感想等を交流する。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第2回	○長崎伸仁実践「海の命」のビデオを視聴し、「かさこじぞう」の授業との違いを中心に交流する。(担当—長崎・石丸) ●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)を決定。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第3回	○「読解と表現をつなぐ文学の授業」の理論 等(石丸) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第4回	○「読解と表現をつなぐ文学の授業」 等(長崎) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第5回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(1年「おおきなかぶ」)の考察 ① 【準備学習】「おおきなかぶ」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おおきなかぶ)』の考察。本授業の振り返り。
第6回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(2年「スーホの白い馬」)の考察 ② 【準備学習】「スーホの白い馬」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(スーホの白い馬)』の考察。本授業の振り返り。
第7回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(3年「おにたのぼうし」)の考察 ③ 【準備学習】「おにたのぼうし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おにたのぼうし)』の考察。本授業の振り返り。
第8回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(4年「夏のわすれもの」)の考察 ④ 【準備学習】「夏のわすれもの」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(夏のわすれもの)』の考察。本授業の振り返り。
第9回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(5年「大造じいさんとがん」)の考察 ⑤ 【準備学習】「大造じいさんとがん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(大造じいさんとがん)』の考察。本授業の振り返り。

<p>第10回</p>	<p>○読解と表現をつなぐ文学の授業(6年「やまなし」のどちらかの実践)の考察 ⑦ ●プレゼンの分担(個人またはグループ)を決定 【準備学習】「やまなし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(やまなし)』の考察。本授業の振り返り。</p>
<p>第11回</p>	<p>○アクティブラーニングを取り入れた文学の授業を構想するポイント(石丸・長崎)―「思考力・表現力・判断力」の育成を視野に入れ― 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第12回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案① 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第13回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案② 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第14回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案③ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
<p>第15回</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案④ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法(アクティブラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出版)

②長崎伸仁・石丸憲一 他『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館出版社)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

③長崎伸仁・石丸憲一『表現力を鍛える文学の授業』(明治図書)

④長崎伸仁・調布市立富士見台小学校『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

⑤長崎伸仁・桂 聖『文学の教材研究コーチング』(東洋館出版社)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**教科等の指導開発研究 A I (社会)****■教員名****宮崎 猛・吉田 和義****■授業概要**

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試みる。

特に本授業の特徴はフィールドワークを通して自らが学修しながら、指導の方法を身に付けていくことである。授業日以外の休日に臨検（これまでに銀座・築地方面、横浜、新宿に出向いた）を行ったり、東京地方裁判所に赴き、実際の裁判を傍聴したりするなどである。

なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	社会科誕生の背景と歴史 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	初期社会科の実践とその本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検事前学習3（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	フィールドワーク臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	社会科教育の現代的課題—法教育 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	裁判傍聴の事前準備 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科の本質ならびに現行学習指導要領の特質、社会科の評価の在り方を理解し、研究的なアプローチに基づいて自ら教材を開発し、展開することができる力量を育成する。

■評価方法

○評価方法 出席：30点(2×15) レポート・振り返り：30点、授業への参加意欲：20点、最終報告書・指導案20点

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D(不合格)：59点以下

■使用教材

「社会科教育の創造 ー基礎・理論・実践ー」教育出版 (2009年)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究 AⅡ (国語)

■教員名

長崎 伸仁 ・ 石丸 憲一

■授業概要

新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた説明文教材の授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から構想する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>○目標と進め方を知る。(担当—長崎・石丸)</p> <p>○長崎伸仁実践「サクラソウとトラマルハナバチ」のビデオを視聴し、感想等を交流する。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第2回	<p>○長崎伸仁実践「ウナギのなぞを追って」のビデオを視聴し、「サクラソウとトラマルハナバチ」の授業との違いを中心に交流する。(担当—長崎・石丸)</p> <p>●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)の決定。</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第3回	<p>○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論 等(長崎)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第4回	<p>○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論 等(石丸)</p> <p>【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。</p>
第5回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(1年「どうぶつの赤ちゃん」)の実践の考察 ①</p> <p>【準備学習】「どうぶつの赤ちゃん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(どうぶつの赤ちゃん)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第6回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(2年「すみれとあり」)の実践の考察 ②</p> <p>【準備学習】「すみれとあり」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すみれとあり)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第7回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(3年「すがたをかえる大豆」)の実践の考察 ③</p> <p>【準備学習】「すがたをかえる大豆」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すがたをかえる大豆)』の考察。本授業の振り返り。</p>
第8回	<p>○読解と表現をつなぐ説明文の授業(4年「くらしの中の和と洋」)の実践の考察 ④</p> <p>【準備学習】「くらしの中の和と洋」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(くらしの中の和と洋)』の考察。本授業の振り返り。</p>

第9回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(5年「言葉と事実」)の実践の考察 ⑤ 【準備学習】「言葉と事実」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(言葉と事実)』の考察。本授業の振り返り。
第10回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(6年「自分の脳を自分で育てる」)の実践の考察 ⑥ 【準備学習】「自分の脳を自分で育てる」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(自分の脳を自分で育てる)』の考察。本授業の振り返り。
第11回	○アクティブラーニングを取り入れた文学の授業を構想するポイント((石丸・長崎) —「思考力・判断力・表現力」の育成を視野に入れ— ●プレゼン(個人またはグループ)の分担決定 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案① 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案② 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案③ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案④ 【準備学習】『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館)を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法(アクティブラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出

版)

- ②長崎伸仁・石丸憲一 他『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館出版社)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

③長崎伸仁『表現力を鍛える説明文の授業』(明治図書)

④長崎伸仁他『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究AⅡ(社会科)

■教員名

宮崎 猛・吉田 和義

■授業概要

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試み、模擬的に実践する。なお、教科等の指導開発研究AⅠ(社会科)同様のフィールドワーク臨検を各自の問題意識を前提に再度行う(Iとは異なった場所)ものとする。また、裁判傍聴ないしはそれに類するフィールドワークも参加者の希望によって企画する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	学習指導要領の理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	社会科教育の本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第10回	教材開発の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	教材開発の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自（各グループ）が開発した教材の紹介（プレゼンテーション）とその振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補者）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

（現職教員）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科について、学習指導要領の理解ならびに授業づくりの方法、指導目標の特質等について理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を培う。

■評価方法

○評価方法 振り返り 30% プレゼンテーション・レポート 30% 期末リサーチペーパー 40%

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D（不合格）：59点以下

■使用教材

宮崎猛（編著）『社会科教育の創造 — 基礎・理論・実践—』 教育出版 2009年

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名

教科等の指導開発研究B I (算数)

■教員名

鈴木 将史・鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「算数的活動」である。「算数的活動」は平成 10 年の学習指導要領において初めて登場し、平成 20 年の現行の学習指導要領において、さらにその意義が強調された。各学年の各領域に必ず「算数的活動」が置かれ、あたかも一つの領域のように扱われている。

その一方で、「算数的活動」という言葉が広い範囲に及ぶことから、従来の活動との違いが明確になっていなかったり、その意義が十分には認識されていなかったりする。また、アクティブラーニングとの関係についても、必ずしも明確になっていない。

この授業では、学習指導要領に述べられている「算数的活動」を 1 つ 1 つ 解き明かし、それらを十分に活用した指導法を考え、教材研究・模擬授業を行っていききたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[1] 第 1 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[2] 第 2 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[3] 第 3 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[4] 第 4 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[5] 第 5 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「学習指導要領」における「算数的活動」[6] 第 6 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの分析について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○「算数的活動」の授業研究[1] 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第10回	○「算数的活動」の授業研究〔2〕 前回到引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「算数的活動」の理論研究 「算数的活動」とアクティブラーニングとの関係を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「算数的活動」授業例〔1〕 低学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「算数的活動」授業例〔2〕 中学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「算数的活動」授業例〔3〕 高学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「算数的活動」の算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「算数的活動」に関する新しい授業案を開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「算数的活動」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究B I (理科)

■教員名

桐山 信一

■授業概要

本授業では、小中学校の理科教材化について学ぶ。前期は、児童、生徒の実験データの適切な処理方法や授業評価の手法（量的研究法の基礎）を学ぶ。

- ・理科授業における児童、生徒の実験データを想定し、その適切な処理方法やグラフ化の手法を学ぶ。
- ・単元や理科授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する方法に即して、量的研究の手法の統計的基礎を学ぶ。
- ・野外実地調査を行い、取得したデータを学んだ手法を用いて分析する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における学校理科の目標と内容、各学年で求められる探究スキル（科学的リテラシーの基礎） 【準備学習】なし
第2回	アメリカの実践に学ぶ小学校理科における探究スキルの育成 【準備学習】教材①
第3回	児童、生徒の実験データ（自然現象におけるデータ）を想定し、記述統計の基礎（分布と代表値）を学ぶ 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第4回	自然現象におけるデータ間の相関について学ぶ（回帰の基礎、グラフ化） 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第5回	自然現象におけるデータの特徴・分布を学ぶⅠ（二項分布） 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第6回	自然現象におけるデータの特徴・分布を学ぶⅡ（正規分布、t分布） 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第7回	理科授業の有効性を証明するために、推計統計学の基礎的考え方（標本と母集団、推定、検定）を学ぶ 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第8回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅰ（授業前後の比較、学級間の比較を想定、関連2群のt検定の実習、独立2群のt検定の実習） 【準備学習】教材④の前時に指示されたところ
第9回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅱ（アンケートの処理、重回帰分析の実習） ※このテーマは幅広いため後期にも継続して学ぶ 【準備学習】教材⑤
第10回	野外実地調査の方法－放射線測定器の使い方、妥当な測定の仕方－ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第11回	野外実地調査Ⅰ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ

第12回	野外実地調査Ⅱ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第13回	野外実地調査で採取したサンプルのデータ分析Ⅰ 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第14回	野外実地調査で採取したサンプルのデータ分析Ⅱ 【準備学習】教材③④の前時に指示されたところ
第15回	おわりにーまとめと課題提示ー 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を教員に指導でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を実施でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を実施することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェSSIONALコース</p> <p>児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を理解し、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができる。</p>
--

■評価方法

<p>出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4点/回×15=60）、課題と発表 40%とする。</p> <p style="text-align: center;">※データ処理のためノートパソコンが必要な場面がある。</p>
--

■使用教材

<p>①慶應義塾機関誌:三田評論、2014年11月号(論文)</p> <p>②桐山信一:小学校理科「物理・天文分野」の指導、大学教育出版、2011年</p> <p>③松井敬:勉強したい人のための統計解析のきほん</p> <p>④柳井久江:4Step エクセル統計 第2~4版、2015年</p> <p>⑤久坂・八木:理科授業の分析スキルを高める統計的手法の検討(論文)</p> <p>⑥過去の桐山ゼミ実地調査報告書など</p> <p>※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。</p> <p>※教材②③④は必ずしも購入しなくてもよいです。①⑤⑥はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。http://home.soka.ac.jp/~kiryama/</p>

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■ **その他**（科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス）

- ① 小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。
- ② 粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。
- ③ 学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

■科目名

教科等の指導開発研究BⅡ(算数)

■教員名

鈴木 将史・鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「割合の指導について」である。「割合」は「分数の割り算」と並んで、ここ数年最も多く取り上げられた「難所」のひとつである。この「割合」について、各教科書はどのように扱っているのか調べ、「何が難しいのか」を明らかにし、そして「どのように指導すればよいのか」について多くのアイデアを出し合っていきたい。

さらに模擬授業を通してアイデアを磨き、現場での指導にも大いに役立つ教材研究としていきたい。教材研究を進めるうちに、「割合」の概念が実は小学校算数のかなり早い段階から現れていること、そして似たような考えが繰り返し現れ、「小数や分数の掛け算割り算」も、同じ考えで指導されることが明らかになってくるであろう。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「割合」に関する教科書の扱い[1] 各教科書における扱いを調べ、その相違について整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「割合」に関する教科書の扱い[2] 前回に引き続き、各教科書における扱いを調べ、整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「割合」指導の困難分析 教科書の内容のどの部分が困難を生じるのか分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「割合」の授業研究[1] 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「割合」の授業研究[2] 前回に引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「割合」の理論研究 「割合」の単元と他の単元との関係性を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○困難解消への工夫[1] 前半で明らかになった各困難項目を克服する新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第10回	○困難解消への工夫[2] 前回到引き続き、新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「割合」についての模擬授業[1] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「割合」についての模擬授業[2] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「割合」から見る「比と比例」 「割合」に関連する単元として、「比と比例」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「割合」から見る「分数の乗除」 「割合」に関連する単元として、「分数の乗除」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「割合」の単元に関する算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「割合」の単元に関する新しい授業案を、教科書の記述を生かしながら開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「割合」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究BⅡ(理科)

■教員名

桐山 信一

■授業概要

本授業では、学習者の科学的リテラシーを育てるための教材化について、粒子・エネルギー領域における今日的課題を踏まえて考察する。前期からの継続履修のみ可能とする(内容の系統性ゆえ、後期のみの履修はできない)。後期は得られた成果から教材を作る教育的技能を養い、その教材の教育的有効性を評価する態度を養う。

- ・理科授業における単元や理科授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する方法に即して、幅広い量的研究の手法を学ぶ。
- ・野外実地調査を行い、取得したデータをこれまで学んだ手法を用いて多角的に分析する。
- ・科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し模擬授業を実施し、相互に評価する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における学校理科で求められる探究スキルと科学的リテラシーの関係を考える 【準備学習】なし
第2回	理科授業の有効性を証明するための手法(χ^2 検定、分散分析、因子分析、クラスター分析の考え方) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第3回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅰ(SPSSによる因子分析、主成分分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第4回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅱ(独立性の検定、クラスター分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第5回	エネルギー問題の現状と課題Ⅰー日本のエネルギー事情ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第6回	エネルギー問題の現状と課題Ⅱー粒子と放射能ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第7回	エネルギー問題の現状と課題Ⅲー核兵器・原子力発電ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第8回	エネルギー問題の現状と課題Ⅳー核実験・原発事故の環境影響ー 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第9回	野外実地調査Ⅰ 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ
第10回	野外実地調査Ⅱ 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ

第11回	野外実地調査で採取したサンプルのデータを組み合わせた分析 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ
第12回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅰ—教材作成— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第13回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅱ—教材作成— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第14回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅲ—発表と評価— 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第15回	おわりに—まとめと課題提示— 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成、実施、相互に評価することについて、教員に指導することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価を実施することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し、実施し、相互に評価することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成することができる。</p>
--

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40%とする。

■使用教材

<p>①小塩真司:SPSSとAmosによる心理・調査データ解析[第2版]</p> <p>②桐山信一:理科概論—エネルギー科学基礎—、創価大学、2014年</p> <p>③過去の桐山ゼミ実地調査報告書など</p> <p>④2014、2015年度に本講座を受講生が作成した指導計画など</p> <p>※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。</p> <p>※教材①②は必ずしも購入しなくてもよいです。③④はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。http://home.soka.ac.jp/~kiryama/</p>
--

■授業で使用する言語

(**日**)・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■ **その他**（科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス）

- ① 小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。
- ② 粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。
- ③ 学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

■科目名

教科等の指導開発研究C(図工)

■教員名

小山 満

■授業概要

はじめにアメリカの美術教育で広く知られるローウエンフェルド(V.Lowenfeld)の美術理論、子どもの絵の発達段階について、この理論が生まれる背景と、その効果を探求し、今後の指導に生かすポイントをおさえる学習をしたい。つぎにチゼック(Franz Cizek)の美術教室について学び、最後にシュタイナー(R.Steiner)の「芸術としての教育」の理論について、現代の教育に生かす方途として妥当か否かを検討する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	ローウエンフェルド(V.Lowenfeld)について紹介する。 【準備学習】ローウエンフェルド(V.Lowenfeld)について調べておく。
第2回	ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階について理解する。 【準備学習】ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階について調べておく。
第3回	ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階について疑問点を出し合い検討する。 【準備学習】ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第4回	ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階について、院生によるプレゼンを聞き、問題点を検討する。 【準備学習】ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第5回	ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階について、疑問点を纏める。 【準備学習】ローウエンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第6回	チゼックの美術教育について紹介する。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第7回	チゼックの美術教育について、質疑応答の記録を確認する。 【準備学習】チゼックによる美術教育の質疑応答の記録をチェックしておく。
第8回	チゼックの美術教育について院生のプレゼンで特色や優れた点を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第9回	チゼックの美術教育について行われたプレゼンの課題を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第10回	チゼックの美術教育について全体を纏める。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第11回	シュタイナーの芸術教育について紹介する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について調べておく。
第12回	シュタイナーの芸術教育について優れた点を明らかにする。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について優れた点を調べておく。
第13回	シュタイナーの芸術教育について問題点を検討する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の問題点を調べておく。
第14回	シュタイナーの芸術教育について院生のプレゼンを聞き問題を整理する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の全体を把握しておく。

第15回	上記 3 人の先達の学びを振り返り纏める。 【準備学習】 上記 3 人の先達について振り返っておく。
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

現実の授業でこれらの理論が応用できるか否か、管理者として必要な事項を修得する。

(現職教員)

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、具体的な手法を見出す。

◇人間教育プロフェッショナルコース

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、理論的可能性を明らかにする。

■評価方法

授業の出席状況と取り組みの姿勢、そしてプレゼンテーションの内容で判断します。

■使用教材

V.Lowenfeld “Creative and Mental Growth” 竹内清・堀ノ内敏・武井勝雄共訳『美術による人間形成』黎明書房 1995。

W.Viola “Child Art” ヴィオラ・久保貞次郎・深田尚彦共訳『チゼックの美術教育』黎明書房 1999。

R.Steiner “Erziehungskunst Methodisch-Didaktischers” 高橋巖訳『ルドルフシュタイナー教育講座 II 教育芸術1 方法論と教授法』筑摩書房 1989。子安美知子・上松佑二『シュタイナー芸術としての教育』小学館 1988

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究C(体育)

■教員名 久保田 秀明

■授業概要

体育教科である、保健の授業と体育実技の授業について、学習者のより良い学びを引き出すための実践的な研究を行う。

本授業は、体育学の専門知識と協同学習の理念・実践を基礎にして、保健と体育実技の授業に適用し、体育教育を通して学習者を尊重する力をつけることを目的として行なわれる。

実技や野外活動の要望があれば、適宜加えることがある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	体育教育の重要性 【準備学習】学校教育法の第1条。小学校の教育課程。体育の領域。学習指導要領解説体育編をもとに、体育教育で何ができるか、何をしなければならないかを考察し、意見をまとめる。
第2回	体育教育における協同学習の理念と実践 【準備学習】能力、意見、立場の違いを学びに生かし、他者を尊重する方法について考察しまとめる。
第3回	発育発達曲線と体育指導 【準備学習】スキヤモンの発育曲線、ゴールデンエイジと体育指導の関係について考察しまとめる。
第4回	神経系と運動学習 【準備学習】運動学習を構造的に理解し、それに神経系がどう関与しているかについて考察しまとめる。
第5回	子どもの生理機能と安全な体育指導 【準備学習】発汗、体温調節、水分補給、熱中症、低体温症と体育指導について考察しまとめる。
第6回	野外活動と心の教育(1) 【準備学習】野外活動の種類、指導方法と、参加者の心理的变化について考察しまとめる。
第7回	「情報化社会」と言われる時代と身体運動 【準備学習】インターネットから得られる情報の特性と、身体運動に伴って五感をフルに使って得られる情報の特性について考察しまとめる。
第8回	能力と個性、競争と相互理解 【準備学習】能力の違いをどう生かすか、競争と勝敗をどう生かすかについて考察しまとめる。
第9回	筋の収縮様式とトレーニング効果 【準備学習】身体運動における筋活動の特性と、そのトレーニング効果について考察しまとめる。

第10回	呼吸・循環機能と全身持久力 【準備学習】呼吸・循環機能の仕組みと、全身持久力を向上させる方法について考察しまとめる。
第11回	野外活動と心の教育(2) 野外活動を小学校教育に取り入れる方法と課題、展望について考察しまとめる。
第12回	新体力テストの方法と体育指導 新体力テストの詳細を調べ、実施上の留意点と有効な実施方法について考察しまとめる。
第13回	児童・生徒の体力の現状と体育指導 今日の児童・生徒の体力の現状を調べ、それを改善する指導法について考察しまとめる。
第14回	小学校体育の領域、内容、単元指導計画、評価規準 単元指導計画と評価基準について考察しまとめる。
第15回	まとめ 全体を振り返り、問題のある点を確認する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教科の専門性を高め、教員の指導、助言をすることができる。

(現職教員)

教科の専門性を高め、学習者をより一層リスペクトする授業の実践に役立てることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校は全科であるが、ある教科に対し専門性を持っていることが求められている。

専門知識とともに、学習者を理解する眼と実践する力を備えることができる。

合理的でかつ学習者を徹底的に尊重する授業のデザインがイメージされ、具体的に実践することができる。

■評価方法

学習内容の理解と主体的な研究実践。活発な質疑、応答、及び協同学習への貢献度を総合的に評価する。

■使用教材

パワーポイントを使用する。必要に応じてプリントを用意する。学内外の体育施設を利用することができる。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究D(生活科・総合的学習)**■教員名** 寺林 民子**■授業概要**

本科目は、「自らの問題解決のプロセスの探究と、生き方を探究する」生活科と総合的な学習の時間について、その意義と本質について理解を深め、具体的な実践の構想の資質を養う。

①生活科は実践事例から、子どもが創る生活科、幼少連携の教育、総合的学習の学びへの発展の視点から、生活科がはたす低学年の子どもの教育の可能性について探究する。②総合的学習の時間はESD(持続可能な社会と平和のための教育)の視点から実践事例を取り上げ考察する。③国際比較の視点から、日本の優れた生活科の実践にみる「子どもの学びの姿とその見取り」、ドイツの生活科やタイの環境学習の取り組みの違いから視座を得る。④学びを生かして授業モデルを作成し、参加者で吟味検討する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースガイダンス 「生き方の探究」としての生活科、総合的学習の時間の独自性と可能性とESD(持続可能な社会のための教育)、環境教育、グローバル教育との関連と発展。世界の教育実践の取り組みについての紹介。 事前準備:シラバスに目を通す
第2回	生活科と総合的学習の時間についての各人の課題の意識化 ディスカッション、各人の問題意識と科目内容の 各人の問題意識を整理してくる。
第3回	生活科・総合的学習の時間のとらえ方 「人生地理学—緒論」、グローバル教育とのつながり 事前準備:配布資料の学習とふりかえり
第4回	生活科の実践とマネジメントの実際 ・実践事例からの考察 事前準備:資料の学習とふりかえり
第5回	生活科の実践と子どもの学び ・教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 事前準備:資料の学習とふりかえり
第6回	生活科の実践と子どもの学びの姿の見とり ・授業記録からの分析 事前準備:実践資料の記録とふりかえり
第7回	教育現場での実際の授業観察 事前準備:授業参観の事前の計画
第8回	教育現場での実際の授業観察 事前準備:授業参観の事前の計画
第9回	総合的学習の時間とESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究①(バンコクの小学校マングローブの林の再生)

	事前研究:ESD についての各人のリサーチレポート。配付資料の学習
第10回	総合的学習の時間と ESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究② (日本の給食牛乳パックのリサイクル) 事前資料:自分の構想(簡略)考察
第11回	ESD から考える総合的学習の時間 各人のリサーチを元にしたディスカッション 事前資料:ESD についての各人のリサーチレポート。
第12回	外部講師による ESD の実践と考え方 事前学習:自己の課題意識の整理と質問準備
第13回	グローバル教育の視点からの実践とその考察 事例研究③宇宙からながめる私の「生命」のつながり 事前学習:自分の構想(簡略)と振り返り
第14回	取材授業・参観授業の協議と分析 事前準備:授業記録の作成、ふりかえり
第15回	学習のふりかえり 事前学習:各人の単元構想

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに学校現場における生活科教育の授業実践のマネジメントと実践研究について指導することができる。

(現職教員)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに自己の実践を省察・吟味することができる。また、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生活科教育。総合的学習の時間について、その指導目標・内容、教材、指導方法、評価などの特質に理解を深め、自分で単元構想を描き、授業実践に活用することができる。生活科を通して子どもの学びの姿をとらえその理解を更新することができる。

■評価方法

ふり返しレポート 30 パーセント、
授業への参加意欲、プレゼン等 40 パーセント、
最終レポート・授業案 30 パーセント

■使用教材

小学校学習指導要領解説 生活科 平成 20 年度版

小学校学習指導要領解説 総合的学習の時間 平成 20 年度版

参考図書『21世紀の学校をひらく トピック別総合学習 ドイツの教育との実践対話』(北大路書房)、「グローバル教育の理論と実践(グローバル教育学会編)、国立教育政策所研究所紀要「世界の総合学習」などその他適宜、資料配布、図書紹介

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究E（外国語活動）

■教員名

近藤 茂代・三津村 正和

■授業概要

『小学校学習指導要領 外国語活動編』で概説されている小学校「外国語活動」の目標・内容を理解し、楽しみながら外国語活動が行えるようになることを目標とする。具体的には、小学校第5・6学年に在籍する児童が、外国語を通した①言語・文化の体験的理解、②コミュニケーションを図ろうとする能動的な態度の涵養、③コミュニケーション能力の素地の育成を図る上での先進的な学習活動について、理論・実践の両面から学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容	
第1回	オリエンテーション(シラバス・授業内容・課題・出席規程等についての説明) ※一旦、V309に集合し、その後、それぞれ該当する教室(リーダー:V309、プロ:V409)に移動	
	【リーダーコース】 (第2～8回:近藤/第9～15回:三津村)	【プロフェッショナルコース】 (第2～8回:三津村/第9～15回:近藤)
第2回	Classroom English/ALT との英会話表現 英語の歌・ゲーム・絵本の活用 【準備学習】英語の歌・ゲーム・絵本調べ	「外国語活動」の目標と実践課題 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読む。
第3回	連携協力校での外国語活動 模擬授業① 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業デザイン:タスク志向型活動 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第4回	連携協力校での外国語活動 模擬授業② 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開①:協同学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第5回	連携協力校での外国語活動①(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開②:プロジェクト型学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第6回	連携協力校での外国語活動②(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開③:ICTの活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第7回	連携協力校での外国語活動③(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	「外国語活動」の授業展開④:演劇の活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。
第8回	連携協力校での外国語活動④(予定) 振り返り 【準備学習】指導案の作成	※連携協力校での「外国語活動」授業観察(予定)
第9回	「外国語活動」の授業デザイン:タスク志向型活動 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成す	Classroom English/ALT との英会話表現 英語の歌・ゲーム・絵本の活用 【準備学習】:英語の歌・ゲーム・絵本調べ

	る。	
第 10 回	「外国語活動」の授業展開①:協同学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動 模擬授業① 【準備学習】:指導案の作成
第 11 回	「外国語活動」の授業展開②:プロジェクト型学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動 模擬授業② 【準備学習】:指導案の作成
第 12 回	「外国語活動」の授業展開③:ICT の活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動①(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第 13 回	「外国語活動」の授業展開④:演劇の活用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布された文献を読み、課題を達成する。	連携協力校での外国語活動②(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第 14 回	※連携協力校での「外国語活動」授業観察(予定)	連携協力校での外国語活動③(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成
第 15 回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。	連携協力校での外国語活動④(予定) 振り返り 【準備学習】:指導案の作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業における積極的な参加態度、模擬授業（或は、プレゼンテーション）の実践、課題（教材・文献の精読、調べ学習、簡単なレポート記述）の達成により、総合的に評価する。

■使用教材

①文部科学省『Hi, Friends! 1・2 市販版児童用テキスト（各 95 円）・市販版指導編（各 114 円）』（2012 年、東京書籍）、②樋口忠彦他『小学校英語教育法入門』（2013 年、研究社、2,000 円） ※その他、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究F(道徳)

■教員名

石丸 憲一

■授業概要

本科目は、子供たちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、それらを学校教育のどのような場で育てていくかを考えるとともに、道徳の時間から道徳科に変わることをどう捉え、どう授業し、どう評価したらよいかを考える場とする。いかに本音で話し合うかに重点を置いた授業づくりを考え、さらに模擬授業やプレゼンにより実践的な評価を行い、生きた指導に結びつくようにする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	「授業のねらい、授業計画の把握」 自分の中の道徳教育を振り返り、自分なりの課題をつかむ。 【準備学習】学習に期待すること、自身の道徳教育について振り返ってみる。
第2回	「道徳とは(特に学校教育において)」 新学習指導要領を読むことにより、道徳教育とは何か、何を求められているのかを考える。 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第3回	「道徳の時間と学習指導要領」 昭和 33 年から平成 27 年までの学習指導要領における道徳の時間、道徳科の変遷から道徳教育の不易と流行をつかむ。(グループ活動で検討する。) 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第4回	「道徳の時間と学習指導要領」 第 3 回に検討した学習指導要領の変遷から読み取ることのできる道徳教育の不易と流行をグループごとにプレゼンテーションする。 【準備学習】グループのプレゼンの準備をする。
第5回	「読み物資料を使った道徳の授業」(講義と討議) 道徳科の授業で使用される資料について、その役割と生かした方を講義を通じて理解する。 【準備学習】各グループの発表を整理する。
第6回	「読み物資料を使った道徳の授業」(演習～読み物の分析～)① 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回の配付資料を読み、意見をまとめておく。
第7回	読み物資料を使った道徳の授業 (演習～読み物の分析～)② 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回は扱った読み物資料について、自分だったらどのように授業を作っていくかを考えてみる。

第8回	「読み物資料の開発」(講義と討議) 資料化されていない物語やノンフィクションをどのような観点で資料化し、どのように資料として利用するのかを考える。 【準備学習】読み物資料の開発についてこれまでの実践等を振り返っておく。
第9回	「読み物資料の開発」(演習) 実際に読み物資料を授業することを前提として構想し、プレゼンテーションする。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第10回	内容項目の検討(講義と討議) 道徳教育で扱われている内容項目について分析、考察することで、今後の道徳教育のあるべき姿を考える。 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。
第11回	内容項目の検討(プレゼンテーション①) 友情について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第12回	内容項目の検討(プレゼンテーション②) 思いやり・親切について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第13回	内容項目の検討(プレゼンテーション③) 郷土愛・愛国心について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第14回	内容項目の検討(プレゼンテーション④) 敬虔・畏敬の念について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第15回	まとめと振り返り 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- 道徳教育を何のために行うのかをいろいろな視点から考える中で確立し、それを具現化する資料の扱いや授業の方法を身につける。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、どのように若手教員にアドバイスしたらよいかを考えることができる。

(現職教員)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、よりよい道徳科の授業を作るための改善点を見出すことができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言)やプレゼンテーション、まとめのレポートを総合して評価する。

■使用教材

主としてプリントを用意する。必要に応じて参考文献などを指定する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

特別活動と生徒指導

■教員名

長島 明純 ・ 近藤 茂代

■授業概要

特別活動の意義・課題を明確にするとともに、生徒指導の今日的諸課題の理解と対応について討議する。併せて、特別活動と生徒指導、キャリア教育、道徳教育との関連についても、開発的な援助という側面を大切にしながら、受講者の問題関心に添いつつ有機的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション（自己紹介を含む） 本科目の意図・内容構成、報告分担 概説①「特別活動の意義と課題」 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。
第2回	概説②「生徒指導の意義と原理」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】生徒指導提要 第1章の生徒指導の意義と原理の箇所を読む。
第3回	プレゼンテーション①「よりよい人間関係づくりのための学級活動」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。
第4回	プレゼンテーション②「児童会活動の現状と課題、生徒指導との関連」 「クラブ活動の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第5回	プレゼンテーション③「学校行事（運動会）の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第6回	プレゼンテーション④「学校行事（卒業式）の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第7回	プレゼンテーション⑤「防災教育の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第8回	概説③「児童生徒の心理と児童生徒理解」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】参考図書の該当部分を読む。

第9回	プレゼンテーション⑥「いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。
第10回	プレゼンテーション⑦「不登校問題の現状、解消のための取組と課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第11回	プレゼンテーション⑧「キャリア教育の現状と課題、生徒指導との関連」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第12回	プレゼンテーション⑨「情報化社会における生徒指導の課題と対応」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第13回	プレゼンテーション⑩「児童養護施設、福祉施設等、関係諸機関との連携」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議 教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第14回	特別講師による講話 「児童擁護施設にかかわって(サレジオ学園)」 東京サレジオ学園長 野口重光先生特別講師による講話 その内容に基づき質疑・検討
第15回	まとめ・振り返り。 学びの発表(発表方法については別途検討)

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について深く考察し理解するとともに、課題解決のために関係機関とも連携しながら、組織的な対応ができるよう、他の教員に専門性をもって適切に指導助言ができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義など整理し理解するとともに、関係機関との連携や組織的な対応について、他の教員に自身の実践事例を踏まえ提案することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義や課題を理解するとともに、それを教育現場での組織的な取り組みや関係機関との連携などに生かすことができる。</p>

■評価方法

発表資料や発表態度、授業参加(質問・協議)の積極性などから総合的に評価する。
--

■使用教材

参考図書：「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著, 金子書房. 2008.
「生徒・進路指導論」吉川成司編著, 創価大学通信教育部. 2013.
「生徒指導提要」文部科学省, 教育図書. 2011.

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

学校カウンセリングの現状と課題

■教員名

長島 明純・高野 久美子

■授業概要

本授業科目では、学校カウンセリングに関する演習や事例検討を中心にして、受講者の問題関心に添いながら、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、校内支援体制や関係諸機関との連携などの進め方などについても理解を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>教員からの本授業科目の意図の内容構成に関する提示。子どもの症状とその意味概説。受講生の学校カウンセリングに関する問題関心について整理・共有。</p> <p>【準備学習】学校カウンセリングについての問題関心を整理しておく(参考図書:石隈 利紀著「学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房)。授業を振り返る。</p>
第2回	<p>カウンセリングの基本を概説。誘発線法を実際に体験し、カウンセリングにおける両者の関係性についての理解を深める。</p> <p>【準備学習】カウンセリングの基本について調べておく(参考図書:石佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャーズ クライアント中心療法 新版 --カウンセリングの核心を学ぶ」有斐閣)。授業を振り返る。</p>
第3回	<p>傾聴についての概説とロールプレイ。相手の話を「聴かない」ロールプレイと相手の話を「聴く」ロールプレイ。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p> <p>* 第5回の授業で検討する保護者対応の事例を各自任意で提出</p>
第4回	<p>教育的ニーズのある子どもの保護者理解について解説。「保護者との面談について</p> <p>① 教育的ニーズのある子どもの保護者との面談についてロールプレイを体験する。教師役・保護者役・観察者二人の4人一組で、役割を交代して実習を行う。</p> <p>【準備学習】教育的ニーズのある子どもの保護者に関して調べておく(参考図書:中田洋二郎著「発達障害と家族支援—家族にとっての障害とはなにか」学習研究社)。授業を振り返る。</p>
第5回	<p>教育的ニーズのある児童生徒の保護者への対応について、具体的な事例をもとに検討。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
第6回	<p>「不登校」「引きこもり」について概説。</p> <p>【準備学習】「不登校」「引きこもり」について調べておく(参考図書:藤岡 孝志「不登校臨床の心理学」誠信書房、「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」厚生労働省)。授業を振り返る。</p> <p>* 第8回の授業で検討する不登校の事例を各自任意で提出</p>

<p>第7回</p>	<p>「児童生徒との面談について①」友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談をロールプレイで体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第8回</p>	<p>学校における「不登校」「引きこもり」への対応の在り方などについて、具体的な事例をもとに検討。(事例検討) 【準備学習】「不登校」「引きこもり」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第9回</p>	<p>「いじめ」について概説。「保護者との面談について②」いじめ被害者の保護者との面談についてロールプレイを体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】「いじめ」について調べておく(参考図書:森田洋司著「いじめとは何か―教室の問題、社会の問題」中央公論新社)。授業を振り返る。 * 第12回の授業で検討する児童虐待の事例を各自任意で提出</p>
<p>第10回</p>	<p>現在の学校カウンセリングの大きな課題の一つである「非行」「暴力」について、特別講師より現在の状況など講話していただく。【準備学習】近年の「非行」「暴力」の傾向について、国の研究調査などで確認しておく。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第11回</p>	<p>「児童虐待」について概説。 【準備学習】「児童虐待」について調べておく(参考図書:川崎二三彦著「児童虐待―現場からの提言」岩波書店)。本授業の内容を振り返る。</p>
<p>第12回</p>	<p>学校における「児童虐待」への対応などについて、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】「児童虐待」の事例への対応について検討しておく。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第13回</p>	<p>関係者会議の在り方とチームシートについて概説。校内や学校外の多様な関係機関とのネットワークについても概説。 【準備学習】学校におけるチーム支援について調べておく(参考図書:石隈利紀・田村節子著「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門―学校心理学・実践編」図書文化社)。授業の内容を振り返る。</p>
<p>第14回</p>	<p>チームシートを活用して、事例をもとにした校内におけるチーム連携を具体的な事例をロールプレイ。(事例検討) 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
<p>第15回</p>	<p>学校における危機管理・危機介入の在り方について概説。これまでの授業の整理・まとめ。 【準備学習】危機管理・危機介入の在り方について調べておく(参考図書:窪田由紀他著「学校コミュニティへの緊急支援の手引き」金剛出版)。これまでの授業での学びを整理しておく。本授業の内容を振り返る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育相談にあたる教員や学校に対して、専門性をもって適切に指導助言したり、関係諸機関や

地域と連携した相談体制を組織したり、校内の支援体制の活用も含め学校における教育相談の進め方や関係諸機関との連携の在り方について整理することができる。

(現職教員)

教育相談技能を高めるとともに、校内支援体制の活用や保護者・地域・関係機関との連携を視野に入れた教育相談の在り方について考察し理解を深めことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育相談の基礎的な内容や方法、校内支援体制の活用や関係諸機関との連携などについて理解と習得を深め、現場で主体的に実践することができる。

■評価方法

(1)授業の中での・演習・事例検討・ディスカッションなどへの参画状況。

(2)学校カウンセリングに関する諸問題についてのレポートの充実度。

■使用教材

随時、資料をプリントして配布。その他、随時、授業の中で紹介します。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別支援教育の現状と課題

■教員名 長島 明純・藤原 義博

■授業概要

・本授業科目では、『きみは・・・』との受講者自身への問いかけにより、特別支援教育の現状と課題に迫る。それによって、自らの課題意識や現実の課題に添いながら障害観を育み、学校現場での特別支援教育の実践力を身につける。

・基本的な特別支援教育に関する知識を基に、課題解決の視点から、教育学や心理学等の知見を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	『きみは、特別支援教育から何を学ぶか？』オリエンテーション ・教員からの本授業科目の目的と内容について提示し、受講者より「特別支援教育」に関する関心について表明。(発表担当決定) ・受講者の関心や課題意識について意見交換し、整理・共有。(グループ討議・発表) 【準備学習】特別支援教育に関する関心について整理しておく。
第2回	『きみの知っている気にかかる子は？』 ・自らの経験等を通して、通常学級に在籍する障害児、特別支援学級や特別支援学校等に在籍するさまざまな障害児、書籍や各種メディア等に登場する障害児(者)等について発表。 ・課題とその解決について意見交換し、考察・整理。(グループ討議) 【準備学習】これまで出会った気にかかる子について振り返り、課題について整理しておく。
第3回	『きみは、特殊教育から特別支援教育の流れを理解しているか？』 ・世界的障害観の動向から、我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れを捉え、現在の「特別支援教育とは何か？」と条約・法規、基礎知識を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育への流れの概要を学んでおく。
第4回	『きみは、特別支援学校・特別支援学級を知っているか？』 ・特別支援教育の理念・目的から、学習指導要領を基に、特別支援学校・特別支援学級の教育目的、教育課程、指導内容を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育に関する学習指導要領について学んでおく。
第5回	『きみは、特別支援教育コーディネーターができるか？』 ・特別支援教育コーディネーター・学級担任等の役割(個別指導計画作成、関係機関との連携等)の考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育コーディネーターの役割について学んでおく。
第6回	『きみは、特別支援教育の現状と課題を知っているか？』 ・これまでの本授業での学びを基に、現職教員より経験に基づく現場の話を聞き、自らの考えを整理・深化。(グループ討議)

	<p>【準備学習】第1回から5回までの本授業での学びを整理しておく。</p>
第7回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動・教育支援を正しく理解できているか？』</p> <p>・応用行動分析学を基盤に、障害のある子どもの行動上の問題の理解と包括的な教育的支援、授業づくりの在り方の要点を学ぶ。</p> <p>【準備学習】応用行動分析学の概要を学んでおく。</p>
第8回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動を正しく理解できているか？』</p> <p>・発達障害のある児童生徒事例について、“困った”行動の機能分析とそれを基にした教育的支援などを考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の行動問題への支援事例を学んでおく。</p>
第9回	<p>『きみは、LD や ADHD の児童を指導できるか？』</p> <p>・LD や ADHD の児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】LD や ADHD の児童について学んでおく。</p>
第10回	<p>『きみは、自閉症スペクトラムの児童の指導ができるか？』</p> <p>・自閉症スペクトラムの児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】自閉症スペクトラムの児童について学んでおく。</p>
第11回	<p>『きみは、発達障害児への各発達段階での援助ができるか？』</p> <p>・乳幼児期の発達障害と援助を中心に、学童期・青年期以降の発達障害への援助についても考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の発達段階に応じた援助を学んでおく。</p>
第12回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 1』</p> <p>・発達障害児への「分かって動ける授業づくり」(支援環境、支援ツール等)を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】「分かって動ける授業づくり」について学んでおく</p>
第13回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 2』</p> <p>・授業における発達障害のある児童生徒への個別的・集団的支援の工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児への個別的・集団的支援について学んでおく。</p>
第14回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 3』</p> <p>・発達障害児への学習プロセス(単元学習、授業展開等)における工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児への学習プロセスについて学んでおく。</p>
第15回	<p>『きみは、これまでの学びを学校現場でどのように活かすのか？』</p> <p>・これまでの講義内容を整理・考察し、今後の学校教育現場で果たすべき自らの役割の在り方を整理・考察。</p> <p>【準備学習】本授業での学びを整理しておく。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・特別支援教育に関する今日的課題について深く理解考察することができる。
- ・発達障害児等への対応、校内支援体制づくりや関係諸機関との連携等について、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。

- ・特別支援教育コーディネーターとして、発達障害児等への対応、校内支援体制の活用、関係諸機関との連携等ができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・発達障害等の適切な対応ができる。授業や生徒指導で活用することができる。

■評価方法

- (1) 特別支援教育に関する諸問題についての研究の報告
- (2) 授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3) 授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

- ・「教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド」(藤原・平澤 編著), 学苑社, 2011
- ・「特別支援教育における授業づくりのコツーこれならみんな分かって動ける」(藤原 監修・著), 学苑社, 2012

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

子どもの人権を保障する学校文化の形成

■教員名

三津村 正和

■授業概要

いじめの解決にあつては、教師一人ひとりがいじめ予防を自らに課せられた「教育的責務」更には「教育的使命」と捉え、いじめを起こさない学校文化を再構築するためへの主体的で自律的な態度をいかに育成するか、私たちの意志と想像力を働かせることが何よりも重要である。本科目の履修者は、いじめ解決を学校教育の中心課題に据える体制を再整備するにあたっての理論と実践法の獲得が期待される。

上述のような目標を達成するための本科目の到達目標は、次の通りである。①いじめに関する国内外の先行研究に精通し、「いじめとは何か」についての各研究者の考えを比較する、②過去のいじめ事例を分析し、いじめの4層構造（被害者、加害者・聴衆、傍観者）への働きかけを検討する、③教師の意識変革を志向する「いじめ予防プログラム」を設計する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション：いじめ研究への導入、いじめの定義・現状と課題 【準備学習】文部科学省、「いじめ防止対策推進法（第2条）」のいじめの定義について、確認する。
第2回	いじめにどう立ち向かうのか(1)：「人間教育」といじめ① 【準備学習】教材①（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第3回	いじめにどう立ち向かうのか(2)：「人間教育」といじめ② 【準備学習】教材①（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第4回	いじめ先行研究の考察（1）：森田洋司のいじめ観① 【準備学習】教材②（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第5回	いじめ先行研究の考察（2）：森田洋司のいじめ観② 【準備学習】教材②（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第6回	いじめ先行研究の考察（3）：今津孝次郎のいじめ観 【準備学習】教材③（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第7回	いじめ先行研究の考察（4）：竹川郁雄のいじめ観 【準備学習】配布資料を読み、討論に備える。
第8回	いじめ先行研究の考察（5）：内藤朝雄、ダン・オルヴェウスのいじめ観 【準備学習】配布資料を読み、討論に備える。
第9回	「いじめ防止対策推進法」重要条文の解説と学校における展開 【準備学習】「いじめ防止対策推進法」及び配布資料を読む。
第10回	いじめの4層構造（1）：被害者と傍観者のエンパワーメント 【準備学習】教材④（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第11回	いじめの4層構造（2）：加害者と聴衆の心理 【準備学習】教材④（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。
第12回	「いじめ予防プログラム」国内外例 【準備学習】教材⑤（指定ページ）と配布資料を読み、討論に備える。

第13回	いじめ予防プログラムの設計・開発① 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第14回	いじめ予防プログラムの設計・開発② 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第15回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動等の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

いじめ予防を志向する主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業への参加態度、課題教材・文献の精読、リフレクションジャーナルの記述、プレゼンテーションにより、総合的に評価する。

■使用教材

①中嶋博行『君を守りたい：いじめゼロを実現した公立中学校の秘密』（2006年、朝日新聞社、絶版）、②森田洋司『いじめとは何か―教室の問題、社会の問題』（2010年、中央公論新社、799円）、③今津孝次郎『いじめ問題の発生・展開と今後の課題―25年を総括する』（2007年、黎明書房、2,808円）、④山脇由貴子『教室の悪魔：見えない「いじめ」を解決するために』（2006年、ポプラ社、950円）、⑤武田さちこ『子どもと学ぶいじめ・暴力克服プログラム：想像力・共感力・コミュニケーション力を育てるワーク』（2009年、合同出版、1,836円）

※①以外の教材は、履修者に購入が求められる。他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育行政・学校経営の現状と課題**

■教員名 **井上 伸良・近藤 茂代**

■授業概要

教育行政・学校経営における重要な各テーマについて、その概要と現状における課題の報告、関連する判例紹介・検討という2つの角度から履修者(各回2名)に報告してもらい、討議する。また、教職としての実践力の向上に資する視聴覚教材の鑑賞、行政職員や校長等の講義も予定している。なお、ゲストスピーカーの都合により、授業の一部について、日時が変更・延長するなど、変則的となる可能性がある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	① 授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 ② 科目テーマに関する目標の明確化、要望提出 【準備学習】シラバスを確認し、この科目で自分が学びたい内容を明確にするとともに、関心のあるテーマの判例を探す。
第2回	学校事故とその防止対策について(発表:25分×2名) 【準備学習】どのような事故が起きているのかについて調べておく。公立学校と私立学校の違いについても調べておくことが望ましい。
第3回	懲戒、出席停止、体罰禁止について(発表:25分×2名) 【準備学習】学校教育法、同法施行規則、「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」(文部科学省通知)等を確認しておくこと。
第4回	いじめ防止対策について(判例報告のみ。発表:25分×1~2名) 【準備学習】いじめ防止対策推進法、「いじめ防止等のための基本的な方針」(文部科学大臣決定)を確認しておくこと。
第5回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について①(発表:25分×2名) *「心理療法カウンセリング講座」のDVD視聴も行う 【準備学習】スマートフォンに関する社会調査を1つ調べてくること。
第6回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について② 「心理療法カウンセリング講座」DVDの視聴等を基にした討議 【準備学習】
第7回	教職員団体について(発表:25分×2名) 【準備学習】教職員団体の役割や沿革について理解しておくこと。
第8回	学校評価について(概要と現状・課題報告のみ。発表:25分×1~2名) 【準備学習】出身校や勤務校の学校評価について調べてくること。
第9回	個人情報・著作権について(発表:25分×2名) 【準備学習】個人情報保護法、著作権法に目を通してくること。
第10回	教育行政・学校経営の実情と課題について教育委員会職員による講話 【準備学習】例規集などを参考として、質問を用意しておく。
第11回	家庭裁判所調査官による非行少年の現状と対応に関する講義① 【準備学習】家庭裁判所調査官の職務について調べておくこと。

第12回	家庭裁判所調査官による非行少年の現状と対応に関する講義② 【準備学習】第2回～第6回の授業内容を見直しておくこと。
第13回	履修者による学校経営・教育行政への提案①(全員発表) 【準備学習】各自が考える課題と解決策について発表準備を行うこと。
第14回	履修者による学校経営・教育行政への提案②(前回の発表を踏まえた討議) 【準備学習】前回の発表を確認しておくこと。
第15回	まとめ。教育行政・学校経営に関する総括として担当教員から講義を行う。 【準備学習】授業内容を見直して臨むこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。また、学校現場で発生しうる法的トラブルについて判例を通して理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題点とされている内容、近時の議論)について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表態度、授業参加の積極性などから総合的に評価する。

■使用教材

最新年度の教育法規集を持参することが望ましい。

判例に関しては、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、「判例時報」「判例タイムス」などにあたるとよい。ウェブ上での判例検索システムが活用できる判例もある。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

学級のデザインと子ども同士の関係づくり

■教員名

田村 修一 ・ 関田 一彦

■授業概要

前半では、これまでの様々な学級経営論(原理・方法)をふまえて、現在の日本における学級経営の課題を把握する。後半では、学級担任に必要な「学級集団アセスメント」および「学級経営コンサルテーション」の理論と技法について演習を通して学ぶ。さらに、今後の「学級経営」と「子どもの同士の関係づくり」に生かせそうな心理学や協同学習分野で研究されてきた新しい取り組みを紹介し、より良い学級経営に在り方と具体的実践方法について研究を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 受講者各自の「本科目における学習目標の設定」 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学級経営の原理・方法 <様々な学級経営論> (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	日本における学級経営の現代的課題(1) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第4回	日本における学級経営の現代的課題(2) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第5回	教師のクラス・マネジメント (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	受講者各自の「本科目における学習目標の(中間)振り返り」 【準備学習と復習】
第7回	学級集団の育成(1) 学級集団のアセスメント:Q-Uの活用 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	学級集団の育成(2) 学級経営コンサルテーション(K-13法)① (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	学級集団の育成(3) 学級経営コンサルテーション(K-13法)② (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	学級集団の育成(4) 学級経営コンサルテーション(K-13法)③ (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	学級集団の育成(5) 学級経営コンサルテーション(K-13法)④ (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	学級経営の新しい試み「学級力向上プロジェクト」 ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第13回	子ども同士の関係作り(1) 「クラス会議」(アドラー心理学)の活用 【準備学習と復習】
第14回	子ども同士の関係づくり(2) アドベンチャー・プログラムの活用 【準備学習と復習】

第15回	受講者各自の「本科目における学習目標の(最終)振り返り」 【準備学習と復習】
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、学校内の全教員に対して、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について指導・助言ができる。

(現職教員)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について、同僚教員に適切な助言をすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

安定した学級経営ができるための基本的な理論と技法を身につける。

■評価方法

プレゼンテーション、ポートフォリオ、課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【学生によるプレゼンの基本資料】

『日本の学級集団と学級経営』 河村茂雄 著 図書文化 2010年

『学級力向上プロジェクト』 田中博之 編著 金子書房 2014年

【田村 担当】

『教師のためのクラス・マネジメント入門』 岡本 薫 著 日本標準 2008年

『Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』 河村茂雄 著 図書文化 2004年

『集団の発達を促す学級経営』 河村茂雄 他 著 図書文化 2012年

【関田 担当】

『クラス会議で子どもが変わる:アドラー心理学でポジティブ学級づくり』

ジェーン・ネルセン他 著(会沢・訳、諸富・解説) コスモス・ライブラリー 2000年

『クラスの力を生かす:教室で実践するプロジェクト・アドベンチャー』

プロジェクト・アドベンチャー・ジャパン 著 みくに出版 2013年

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教員研修実務研究

■教員名

若井 幸子・近藤 茂代

■授業概要

教員研修の歴史・目的・内容・方法・運営・評価に関する理論と技法を講義と演習を通して学び、各種教育委員会(東京都・八王子市)が主催する教員研修会の実務経験を通し教員研修に関する学びを深める。リーダーコースは所属校での経験を生かす研修とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 本授業の概要と進め方 評価方法についての説明 教員研修の歴史および概論
第2回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討① (講義・討議) 【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第3回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討② (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第4回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討③ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第5回	八王子市教育委員会における研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第6回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討④ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属稿の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第7回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑤ (講義・討議・提案)【準備学習】:所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第8回	東京都教職員研修センターにおける研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第9回	八王子市教育センターにおける実務研修① 復習:研修記録を書く
第10回	八王子市教育センターにおける実務研修② 復習:研修記録を書く
第11回	八王子教育センターにおける実務研修③ 復習:研修記録を書く
第12回	東京都教職員研修センターにおける実務研修① 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第13回	東京都教職員研修センターにおける実務研修② 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第14回	東京都教職員研修センターにおける実務研修③ 【準備学習】・復習:研修記録作成 校内研修(案)の作成
第15回	実務研修感想 レポート作成 校内研修(案)の発表 プレゼン・討議 等 【準備学習】:レポート等の用意 復習:振り返りをまとめる

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

校長・副校長・指導主事として総合的な立場から教員研修を計画し、運営する能力を身につける。

(現職教員)

スクールリーダーとして、同僚教師達の実践的指導力を高められる校内研修を計画し、運営する能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教員研修の目的・内容・方法・運営・評価について理解し、校内研修を計画・運営するための基礎的スキルを身につける。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、リフレクションペーパー、校内研修案や討議、プレゼン、学期末レポートなどを通して総合的に評価する。

■使用教材

『教師改革のゆくえ』 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編 創風社 2006年
『研修の効果的な運営のための知識・技術(3訂版)』 独立行政法人教員研修センター編 平成23年3月

その他 必要に応じて提供する

教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割**

■教員名 **坂本 辰朗 ・ 鈴木 詞雄 ・三津村 正和**

■授業概要

現代の学校と教員の役割が、生涯学習・国際化・情報化社会の進展に伴い、どのように変容しつつあるかについて認識すること、さらにその変容に適切に対応するためには、学校と教員はどのような課題を解決していくべきかを理解する。本コースには討議・発表など種々の授業形態が組み込まれているが、その詳細については第1回目のオリエンテーションで説明する。なお、本年度は、国際化・情報化社会における教育課題を中心に実施する予定である。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 社会変化の中における教育課題
第2回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割①（三津村） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第3回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割②（三津村） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第4回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割③（鈴木） 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。
第5回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割④（鈴木） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第6回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑤（坂本） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第7回	国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑥（坂本） 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第8回	国際化・情報化社会と教育課題①（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第9回	国際化・情報化社会と教育課題②（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第10回	国際化・情報化社会と教育課題③（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第11回	国際化・情報化社会と教育課題④（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第12回	国際化・情報化社会と教育課題⑤（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第13回	国際化・情報化社会と教育課題⑥（学生個人主導） 【準備学習】レポート（枚数は、別途提示）を仕上げる。
第14回	学期末プレゼンテーション①（個人或はグループ） 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

第15回	学期末プレゼンテーション②（個人或はグループ） 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるか、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

現代の学校と教員の役割が、国際化・情報化社会状況の中で、どのように変貌しつつあるか、授業で取り上げた基礎概念を使用しつつ説明できるか、授業における報告内容、中間のレポート、学期末のプレゼンテーションにおける内容を総合して評価する。

■使用教材

授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

子ども理解・保護者理解

■教員名

田村 修一

■授業概要

日々の教育実践の中で、教師が自らの「人間観」「子ども観」「教師観」について考えを深めていくことは大変重要なことである。また、教師には子どもや保護者の援助ニーズを的確につかみ、効果的な援助できるための技術(スキル)も必要である。このような子どもや保護者に対する「アセスメント能力」や「指導・援助サービスのスキル」の向上に役立つ学問として「学校心理学」が注目されている。そこで本科目は、「学校心理学」の理論と技法を基盤として、子どもや保護者に対する「アセスメント能力」を高め、賢いアセスメントに基づいた「心理・教育的援助サービス」を学校で十分に展開できる能力を培う授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 生涯発達の観点から、現代の子ども達の育ちについて考える（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	人間理解のための心理学(1) 心理学研究の3つのアプローチ ①「精神分析理論」②「行動主義理論」③「人間性心理学」（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	人間理解のための心理学(2) 学校心理学概論① 学校心理学の定義と必要性、世界の学校心理学の動向（講義・討議） 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	人間理解のための心理学(3) 学校心理学概論② 心理教育的援助サービスの基礎概念、三段階の援助サービス(講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	「環境としての教師」のアセスメント(1) 「リフレーミング」の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第6回	「環境としての教師」のアセスメント(2) オランダの教師教育から学ぶ： 自分の「教育観」の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	「環境としての教師」のアセスメント(3) 「RCRT」の活用： 自分の「子ども観」の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	子どものアセスメント(1) 学習面のアセスメント① 知能検査(WISC)の活用 (講義) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	子どものアセスメント(2) 学習面のアセスメント② 知能検査(DAM)の活用 (講義・演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

第10回	子どものアセスメント(3) 心理・社会面のアセスメント① 描画法(バウムテスト)の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	保護者理解のために(1) エゴグラム(交流分析): 自己の養育態度の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	保護者理解のために(2) 「苦情を申し立てる保護者」の理解と対応(1) 基礎 編 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第13回	保護者理解のために(3) 「苦情を申し立てる保護者」の理解と対応(2) 難しいケース 編 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第14回	教師のメンタルヘルス・マネジメント(1) 教師のバーンアウトとセルフ・チェックの重要性 (講義・演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	教師のメンタルヘルス・マネジメント(2) 職場のリーダーのためのメンタルヘルス・マネジメント (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得し、他の教職員に適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

子ども・保護者を正確に理解できる能力、感受性を培い、学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、学校や保護者の立場に柔軟に対応できるスキルを習得する。

■評価方法

平常点(出席・授業の参加態度)、および「課題レポート」により、総合的に評価する。

■使用教材

『よくわかる学校心理学』 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著

ミネルヴァ書房 2013年

『教師教育学: 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』 フレット・コルトハーヘン

(武田信子・今泉友里 訳) 2010年

『生涯発達の中のカウンセリングⅡ: 子どもと学校を援助するカウンセリング』 石隈利紀・

藤生英行・田中輝美 編 サイエンス社 2013年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間的成長に関する理論と実践

■教員名

長島 明純

■授業概要

人間的成長に関する発達心理学や精神分析等の知見、自己理解を深める演習等の学びを通して、児童生徒やその保護者への理解を深めると共に、教員としての自らの生き方・在り方についても検討する。各々の人間観・教育観を深めながら、現在の学校教育の課題を克服するための方途を探る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>授業のねらいや全授業の流れ、進め方等オリエンテーションする。自分の弱さをも受容する大切さを人間的成長に関する視点から検討する。本授業に関する受講者の関心や課題意識について意見を表明してもらう。</p> <p>【準備学習】本授業に関する関心や問題意識を整理しておく。人間的な成長とは何か発達との関係も含め考えておく。本授業内容を振り返る。</p>
第2回	<p>家と木と人を描く HTP 法で絵を描く。演習を通して、演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第3回	<p>発達心理学の知見を参考にしながら、私の成立に関係する一者の世界、二者の世について概説する。外的対象と内在化、内的対象と対象恒常性等の精神分析の知見も紹介し、私の成立に関する視点を豊かにする。世代間伝達等生涯を通じた親子の相互作用についても紹介する。これらの知見を参考にしながら、親子の関係が難しくなる要因についても検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第4回	<p>相互なぐり描き法(一人が紙になぐり描きをし、続いてもう一人が、そのなぐり描きの線から連想した絵を描く。この過程を、順序を交替して数回繰り返す。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第5回	<p>私の成立に関係する三者の世界について、情動の共有、情動的コミュニケーションと知的コミュニケーション、共同注視、世界の敷き写し等の発達心理学の知見を紹介しながら概説する。移行対象や自閉対象等の精神分析の知見も紹介しながら、私の成立に関する視点を豊かにする。本授業の知見等参考にしながら自閉的な児童生徒への支援について検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第6回	<p>相互なぐり描き法で描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。言葉の力や物語ることの意味について検討する。発達心理学の一次的なことばと二次的なことばについての知見等も紹介する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第7回	<p>風景構成法(川や山等の風景のアイテムを指示された順番に描いていく)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の</p>

	<p>教育の在り方を考える。</p> <p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、教師自身の人間的成長および今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第8回	<p>人間の脳の特性について、記憶と忘却を中心に概説する。心的外傷ストレスやフラッシュバックについても紹介する。これまでの授業を踏まえ、今後の学校教育でどのような工夫が必要なのか、そのために教員自らの在り様について、どのような配慮が大切なのか等検討し整理する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第9回	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第10回	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第11回	<p>分析心理学のシャドーや個性化等の知見を紹介しながら検討し、人間的成長についての視点を豊かにする。嫌なものの処理に関する、精神分析の防衛や転移、抑圧や乖離等の知見も紹介し、人間的成長に関する理解を深める。本授業の知見等参考にしながら発達に特性があり反抗的な児童生徒への支援について検討する。</p> <p>【準備学習】自分にとって苦手なものについて整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第12回	<p>コラージュ法(自分で選んだ雑誌や広告等から写真や絵等を切抜き、台紙に貼る)と相互コラージュ法(自分が選んだ雑誌や広告等から、自分がほしいだろうと思う写真や絵等を相手が選ぶ。その選んだくれた切抜きの幾つかを台紙に貼る。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。コラージュ法で使う雑誌等を集めておく。本授業内容を振り返る。</p>
第13回	<p>個人の無意識や集団の無意識に関して、個人と組織・社会のシステムとの関係も含めて概説する。その際、精神分析の投影や取り入れ、巻き込み等の知見等も紹介する。学校における児童生徒や教職員の集団づくりについて検討する。人と人との‘間’に生きている人間の特性や自己理解と他者理解の相互的な関係等も解説する。</p> <p>【準備学習】参考図書等から精神分析の投影の概念等調べておく。前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
第14回	<p>合同描画法の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>

第15回	<p>基本的信頼関係と愛着、自立と依存の問題を、発達心理学や精神分析の母子相互作用やグッドイナフマザー等の知見を紹介しながら概説する。分析心理学の元型の概念に関連する母なるもの・父なるものや内なる子ども等の知見も紹介する。本授業の知見等参考にしながら家庭環境があまりよくない児童生徒の自立のための支援について検討する。</p> <p>【準備学習】全授業を振り返り、ここでの学びを整理しておく。</p>
-------------	--

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解を深めるとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を深く考察し、現場の対応について他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。 <p>(現職教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、他の教員に対して提案することができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を適切に考察し、現場の対応について他の教員に提案したり助言したりすることができる。 <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言等に生かすことができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を考察し、現場の対応に適切に生かすことができる。

■評価方法

<p>(1)授業の中での質問・協議への参画状況。</p> <p>(2)人間的成長に関する諸問題についての講義や協議(ワークショップ)を踏まえたレポートの充実度。</p>
--

■使用教材

<p>参考図書</p> <p>小此木啓吾・河合隼雄著『フロイトとユング』(講談社学術文庫)、講談社、886円。</p> <p>三木成夫著『生命とリズム』(河出書房新書)、河出書房新社 918円。</p> <p>浜田寿美男著『「私」とは何か』(講談社選書メチエ)、講談社、1944円。</p> <p>河合隼雄『河合隼雄のカウンセリング入門—実技指導をとおして』創元社 1620円。</p> <p>河合隼雄『カウンセリングの実際問題 岩波現代文庫』岩波書店 1339円。</p> <p>※ 随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。</p>

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教員の服務と教育法規

■教員名

井上 伸良

■授業概要

地方公務員法、教育公務員特例法などに規定される教員の服務に関連する条文規定について、判例の検討を行う。実際の事案を通して、教員として起こりうる服務上の法的な問題点について自覚を深められるようにしたい。履修者(各回1名。例外的に2名発表も考慮する)に 45 分程度で報告してもらい、討議する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	① 授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 ② 科目テーマに関する目標の明確化、要望提出 【準備学習】シラバスを確認し、この科目で自分が学びたい内容を明確にするとともに、関心のあるテーマの判例を探しておくこと。
第2回	宗教的中立性について(発表:50分) 【準備学習】日本国憲法第20条、教育基本法第15条を判例含め確認。
第3回	政治的中立性、争議行為の禁止について(発表:50分) 【準備学習】教育基本法第14条を判例含め確認。
第4回	政治的行為の制限について(発表:50分) 【準備学習】政治的行為(人事院規則14-7)を確認。
第5回	信用失墜行為の禁止について①(発表:50分) 【準備学習】教員の信用失墜行為を特集した教育雑誌記事等を調べておく。
第6回	信用失墜行為の禁止について②(発表:50分) 【準備学習】第5回に同じ。
第7回	職務専念義務について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第32条関連の判例を複数確認しておく。
第8回	研修について(発表:50分) 【準備学習】公立学校の研修制度の変遷について調べておく。
第9回	生徒指導(体罰禁止)について(発表:50分) 【準備学習】体罰に関する最近10年の文部科学省通知を確認しておく。
第10回	生徒指導(注意義務違反が問われた事案)について(発表:50分) 【準備学習】学校事故の種類および賠償責任の傾向について確認しておく。
第11回	教員人事(転任)について(発表:50分) 【準備学習】在籍あるいは志望する都道府県の人事・昇任システムについて調べておく。
第12回	秘密を守る義務について(発表:50分) 【準備学習】教員(OB)として問題となった事案について調べておく。
第13回	法令・上司の職務上の命令に従う義務について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第32条の判例を確認しておく。

第14回	兼業の制限について(発表:50分) 【準備学習】地方公務員法第38条の判例を確認しておく。
第15回	まとめ。総括討議。 【準備学習】授業内容を見直して臨むこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。学校現場で発生しうる法的トラブルについて判例を通して理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題点とされている内容、近時の議論)について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表態度、提出物などから総合的に評価する。

■使用教材

『解説教育六法』三省堂(できるだけ新しい年度のものを持参すること)。

判例に関しては、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、「判例時報」「判例タイムス」などにあたるとよい。ウェブ上での判例検索システムが活用できる判例もある。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

